

国際交流基金北京日本文化センター 北京日本学研究センター 共催

2013年日本語教育学 実践研修



国際交流基金北京日本文化センター 北京日本学研究センター 共催 2013年日本語教育学実践研修

一成長し続ける教師たち―

目次

前書き	2
本研修の流れと意義	4
講義紹介	6
憂秀レポート紹介	8
憂秀レポート講評	18
実践活動紹介	20
実践研修に寄せて	27
レポート概要紹介	28
実践研究レポートタイトル一覧	30
講師からのメッセージ	31
2013年地域巡回日本語教師研修会実施報告	32
国際交流基金北京日本文化センターの大学日本語教師向け研修一覧	i35
数材紹介	36
編集後記	36

本冊子は、「2013年日本語教育学実践研修」について、 8月の集中研修会から12月の実践研究発表会まで4か月間にわたり実施した研修と実践の成果をまとめたものです。

周知のとおり、中国における日本語学習者は 100万人を超え、中国人日本語教師はおよそ 1.4万人です。中国人日本語教師は、日本語運用能力や日本語の言語知識において、世界に誇る第一級の水準と厚みをもっていますが、「日本語教育学」の学問としての確立は発展途上にあります。また、中国の地方で教鞭をとる教師にとって教材・教授法の情報や研修機会は十分とは言えません。こうした事情を背景に、北京日本学研究センターと北京日本文化センターが協力して、「実践」をキーワードとする新たな教師研修が企画されました。

従来の研修は、言語学知識や教育理論、ワークショップで体験した授業法を今後ぜひ応用してみましょうというものですが、本研修では、講師・受講者間の対話と実践を重視しました。最初の研修会では各教師が自らの問題意識を深め、授業を効果的に進めるための具体的テーマを設定。そして、4ヶ月後の発表会までの期間に、授業の改善と評価の目標に沿ってクラスの授業の中で実践を試みました。

この実践を通して、授業の成果が期待したほど出ない、 目標自体に問題があった、授業効果は上がったが評価測 定できない、理論化・客観化がむずかしいなど、全参加 者が悩み、試行錯誤と反省を実感しました。こうした紆 余曲折や失敗にこそ、「実践」の意味と成果があります。 また、本研修の企画自体も新たな試みであり、指導する 講師の側も試行錯誤と工夫を積み重ねた研修でした。

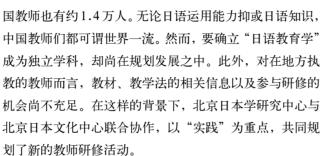
参加者が再会した発表会では、活き活きとした発表と 真摯な質疑応答が行われ、各教師は各人各様に確かなて ごたえを実感することができました。それは、今後の教 育活動に大きな自信を与えると思います。

本冊子は、日本語教師の実践報告であるとともに、今後に向けた教育実践への招待状と言えるかもしれません。私たちのささやかな試みが中国の日本語教育と日本語教育学の前進にいささかでも意義あることを確信し、その記録をここにお届けするものです。

国際交流基金北京日本文化センター 所長 吉川 竹二

本书为"2013年日语教育学实践研修"自8月集中研修会至12月实践研修发表会止,为期四个月实施的研修与实践之成果总结。

众所周知,在中国日语学习者已超过100万,教授日语的中



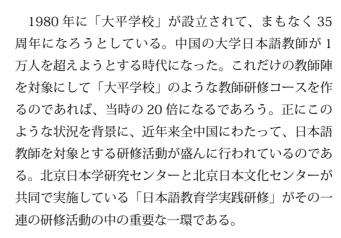
以往的研修,虽然强调语言学知识、教育理论及研讨会所讲授教学法的应用,但本次研修,则更重视讲师与听众的对话与实践。在最初的研修会上,每位教师除了加深自我问题意识,为增强教学效果,也给课程设立了具体主题。在其后截至发表会的四个月中,教师们以教学改善和教学评价为目标,在实践中不断尝试、探索。

此次实践中,参加者为"教学成果不如预期"、"目标自身存在问题"、"教学效果有提升但无法测评"、"难以实现理论化和客观化"等问题困扰,也在失败中不断反思与尝试。可是,"实践"的意义与成果正是蕴藏在这样的迂回曲折和失败之中。另外,本次研修规划自身也是一种新的探索,见证了指导专家们不断尝试与钻研的历程。

在研修者们再次汇集的发表会上,我们观摩到许多生动活泼的展示以及严肃认真的疑难问答,还有老师们学以致用的各种实践反馈。我想,这样的历经可以给人很大自信,以便他们更好地投身于今后的教育活动中。

本书既是日语教师的实践报告,也可以说是通向今后教育实践的一封请柬。尽管我们的尝试微不足道,但 我确信,对于中国日语教育和日语教育学的发展前行至 少也有一点意义。正因如此,我们将这份记录整理发行, 与读者共享。

> 北京日本文化中心(日本国际交流基金会) 主任 吉川 竹二



この研修の特徴は、他の研修活動と同じような第一部の 専門家講師による講義があるだけでなく、それをベースに して、研修参加者が各自の教育現場に戻り、それぞれの授 業のなかで、実践研究を行い、更に一堂に集まり、その実 践研究を発表する第二部の研修が用意されているというこ とである。それらの実践研究発表のテーマを見ると、実に 豊富多彩で、この研修の成果の素晴らしさが分かる。

ところで、数多くの教師研修活動の中で、一つの問題が抱えられている。それは、それらの研修主催団体の間では、情報、資源の共有と連携プレーが足りないということである。このような問題を解決するために、中国日本語教学研究会は昨年の8月に、日本語教師研修を実施している主な団体に呼びかけ、「第一回中国日本語教師研修サミット」を開催した。このサミットを通して、各主催団体がお互いの研修活動の経験やノウハウを交流し、今後は各自の研修活動の特色を維持しながら、団体同士のより緊密な協力関係を作っていきたいという共通認識にいたった。

その後、中国日本語教学研究会は『中国日本語教師専門 発展研修五カ年計画』を打ち出した。中国大学日本語教師 の教育理念と教育レベルを高め、より多くの日本語教師に、 自分の教育過程の中で、学力と思考力の養成をともに重視 し、学生の好奇心を刺激し、学習者に如何に学ぶかを教え、 自由探索のような学習環境を作り上げるように実践しても らうよう努力していきたいと考えている。

> 中国日本語教学研究会会長 北京日本学研究センター長 徐 一平

自从 1980 年建立"中国日语教师培训班(大平班)"到今天已经过去了将近 35 个年头,中国的大学日语教师队伍也即将迎来超过 1 万人的新时代。如果要像当年那样,以建立"大平班"那样的教师研修课程,来培训当今



的日语教师队伍的话,恐怕至少要投入 20 倍的人力和财力才能够完成。正是在这样的一个大背景下,近年来在全国各地,面向日语教师的研修活动正在蓬勃发展。由北京日本学研究中心和北京日本文化中心共同实施的"日语教育学实践研修"正是这一系列研修活动中的重要组成部分。

此次研修的一大特点在于,不仅在研修第一阶段,有相同于其他研修活动的由专家学者进行课程讲解的一环,同时,在此基础上,还有一个第二阶段,那就是参加研修的教员们,回到各自的教学岗位之后,在课堂上进行实践研究,之后再次汇集到一起,对各自的实践研究成果进行汇报的阶段。一览实践研究汇报的题目,真可谓是丰富多彩,其研修成果的丰硕程度也显而易见。

然而,在众多的教师研修活动当中仍存在着一个问题。 那就是各研修活动主办单位之间没有实现信息、资源的共享,同时各单位之间的合作、协调也非常不够。为了解决这一问题,去年8月,在中国日语教学研究会的倡导下,召集各个实施日语教师研修的主办单位,举行了"第一届中国日语教师研修高层论坛"。通过这一高层论坛,各主办单位相互交流了各自研修活动的经验,并达成共识,希望今后在坚持自身研修活动特色的同时,努力在各主办单位之间建立紧密的合作关系。

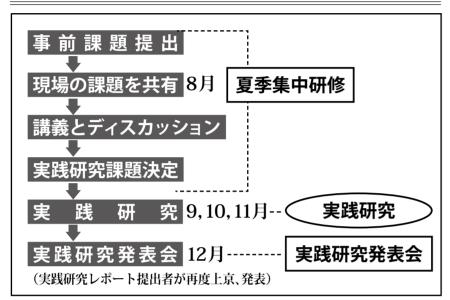
会后,中国日语教学研究会拟定了"中国日语教学研究会教师专业发展研修五年计划",旨在进一步提高国内大学日语教师的教学理念和教学水平,使更多的日语教师在各自的教学过程中,进一步重视培养学生的学习能力和思考能力,激发学生的学习热情,帮助学生学会学习,为创造自由探索式的良好学习环境,不断亲身实践,努力前行!

中国日语教学研究会会长 北京日本学研究中心主任 徐 一平

2013年日本語教育学実践研修

第1部:夏季集中研修 第2部:実践研究発表会

◎研修と実践研究発表までの流れ



■内省を通し、課題を確認する研修

国際交流基金北京日本文化センターと北京日本学研究センター共催による本研修は、2013年8月6日から11日にかけて行われました。本研修は、2010年から両センター共催により実施されてきた大学教師日本語教育学研修会(通称「木曜研修」)の参加募集を全国規模に拡大したもので、主旨は以下のとおりです。

- (1) 日本語教育を実践と研究の両面から捉え、自らの問題意識、課題を確認する。
- (2) 実践の内省を通して、授業の更なる改善を目指す。



8月6日、全国各地から33名の日本 語教師が北京に集まりました。平均年齢 は35歳でした。

参加者は事前に「授業での問題と改善計画」というレポートを提出しています。それを読んだだけでも、参加者の教育への熱い想いが伝わってきました。しかし、そのほとんどが、改善計画には至らずに、現状の問題に対する分析だけに終わっていました。実践研究をすることが前提の6日間の研修ですが、「実践研究」が何かということを理解していない参加者もいました。

問題意識を抱えているだけでは、実践 研究にはなりません。33名の教師たちは、

問題の打開に向けて、どう行動するのか、その糸口を見つける研修のスタートラインに立ちました。

授業は、毎日午前9時から11時半、午後は2時から5時まででした。講義の内容は以下のとおりです。講師は北京日本学研究センターの曹大峰教授、朱桂栄副教授、国際交流基金北京日本文化センターの日本語教育専門家が担当しました。

講義

①新しい理念と教え方を考える―教材改革例を通して―

②教師の成長を考える一批判的ふり返りを通して一

③第二言語習得理論

④読むことを考える

⑤聞くことを考える

⑥話すことを考える

⑦学習を評価する、IF日本語教育スタンダード

講義は双方向性で、参加者が新しい知識を得るだけではなく、常に自分の授業に投影して思考し、内省から課題の確認へと進むように組み立てられました。グループでの作業やディスカッションが多いのも特徴です。

授業のあとには学びの蓄積が視覚的に認識できるよう に付箋を壁に貼りました。加えて、毎回の学びをレポートに書いて提出し、講師がフィードバックをしました。 そして参加者はそれをポートフォリオに整理し、問題意 識から課題発見へと思考を深めていきました。

■顔が見え、声が聞こえ、仲間とつながる研修

この研修の特徴は小規模だということです。課題の内容によってクラス分けされ、クラスには担当者がいます。講義を聴くだけではなく、クラス別の時間が5回、計7時間ありました。クラス別の課題相談ではグループ相談、全体での相談及び教師と1対1の相談などを織り交ぜながら、自分の課題をどのように実践研究にしていくかを何度も話しあいました。それだけでなく、参加者は北京日本学研究センターの図書館を利用し、熱心に関連図書に目を通し、知識の理解を深め、先行研究を集めていました。そうやって、少しずつ、研究計画が出来上がっていったのです。

自分と似たような問題意識を持った教師と話し合う中で、「実践研究」とは何かが少しずつ見えてきたといえるでしょう。最終日の課題発表でも、仲間の発表を聴いて学ぶ姿も見られました。

以下は夏の研修のアンケート記述例です。

夏季集中研修参加者の声

- ・教育実践というテーマをめぐり、教育に関する系 統性のある研修内容を教わった。
- ・「第二言語習得」は私の一生の課題だろう。これ から一つ一つ勉強したい。
- いい刺激になった。
- ・正直に言えば本当に疲れる研修会だが、まだまだ ここで勉強したい、疲れていても勉強したいとい うのは幸せではないかと思う。
- ・課題相談の時間を割いてゆっくり相談できた。
- ・自分のやりたい課題の各ステップを明確にした。
- ・自分の実践に基づいて自分なりの方法論をまとめ て頑張りたい。
- ・実践活動、個人の課題について相談などの形式で 具体的問題を解決できた気がする。
- ・今まで教育の中でぼんやりしている問題点をはっ きりしたところが一番の収穫だと思う。
- ・来る前はいろいろな問題を全部改善したかったが、ここへ来てアドバイスをもらった。問題は一つずつ解決する必要がある。



■成長し続ける教師を目指して

夏の研修が終わり、教師たちは各自の現場へ戻って行きました。そして、そこで研究計画に基づいて、実践研究をするために授業をデザインし、データをとりました。 その後、データを分析、レポートを書いて提出しました。

夏の研修に参加した教師たちの日本語教育への情熱に も驚かされましたが、今回、3カ月の間に実践研究を行い、 発表した16名は特に、日本語教育について語り飽きるこ となく、良い授業を目指して教師としての成長を続けた いという意志の強い人たちでした。

実践研究に関しては初めての挑戦という参加者が多く、記述に丁寧さが欠けていたり、エッセイ風なものがあったり、テストの数字だけをデータと考えていたりと未熟な点もありましたが、実践授業を試み、5枚のレポートを書き、発表し、ほかの教師の発表を聴く過程で、実践研究とはどういうものであるかを掴んだのではないかと思われます。発表会では北京師範大学の林洪先生、冷麗敏先生にも丁寧なコメントをしていただき、またご講義も参加者への新たな刺激になったようです。

参加者は、大変だったけれど充実していた夏の研修や、 現場での孤独な実践研究を振り返って胸を熱くし、再び 現場に戻っていきました。

教育現場で日本語教育について議論したり、日本語教育研究について語り合ったりする仲間がいない、と聞くことがあります。本研修参加者にとっては、教育について考えることに努力を惜しまない仲間に出会えたことが、今後大きな支えになるのではないでしょうか。

ここで生まれたネットワークが広がり、続いていくことを願っています。

講義紹介

8月の研修では、参加者は自分の課題に取り組むとと もに、講師による以下の講義に参加しました。日本語 教育学について様々な角度から考えるとともに、自分 自身の授業を振り返る機会となりました。

在8月的研修中,参加者在开展自己课题的同时,也参与到下列讲师演讲的教学中。除了可以从多种角度思考日语教学,对于参加者而言也是反思自己教学的好机会。



講義①:新しい理念と教え方を考える -教材改革例を通して-(曹大峰)

時代の変化に伴い、日本語教育の現場も現在変革が求められている。1週間の実践研修の最初に行われた講義、「新しい理念と教え方を考える一教材改革例を通して」では、参加教師たちの考え方に揺さぶりをかけることが目指されていた。講義の中では、新しい時代における日本語教育の方向性を考えるとともに、言語の学習を通じて学生に身につけさせるべき能力とはどのようなものか、中国の現場でそれがどういった形で可能かといったことについて、豊富なデータと具体的な教材改革例をもとに話が行われた。

日々の授業の中で悩みを抱えている教師や、現在自分が行っている教え方では学生の能力が十分に育たないという問題意識を抱えた教師たちから、講義に対し大きな反応があった。ここで触れた理念や考え方が、その後続く様々な講義や、自分自身の課題を振り返る際のきっかけとなっていった。

講義②: 教師の成長を考える -批判的ふり返りを通して-(朱桂栄)

二日目午前には3時間の時間をかけて、「教師の成長を考える一批判的ふり返りを通して一」の活動が行われた。社会の変化が激しく、価値観も多様化した社会の中で、教師も常に他者と関わり合いながら生きること、そして成長しつづけることが求められている。そのために現在注目されているのが「ふり返り」である。

「批判的ふり返り」の活動はグループで行われた。 一人が自身の経験や考えについて話し、他者がそれを 傾聴するという形で、語り手は話し続けることによっ て自らの中の問題と向き合っていく。また、自分たち でイメージしたことを言葉にしてポスターに示してい くという活動も行われた。3時間という長い時間だっ たが、教師たちはそれぞれ自らとしっかりと向き合い、 また他者の言葉に耳を傾けていた。

講義③: 第二言語習得理論

「教師が何を教えるのか」という視点から「学習者はどう学んでいるのか」への視点の転換は実践研究を考える上での基本になる。本講義では、第二言語習得理論に馴染みのない教師にもその視点を持ってもらえるように解説した。インプット仮説、アウトプット仮説、インターアクション仮説を説明し、自分の外国語学習体験を振り返りながら理解を深めてもらった。また、そこから「言語能力とは何か」に対する理解へと広げた。

第二言語習得理論には外来語のままの術語も多く、 初めて聴く教師が正確に理解するためには時間を要す る。今回は短い時間にまとめた講義だったが、実践研 究を考える上での課題検討のための入り口になったの ではないだろうか。

講義④: 読むことを考える

日常生活では、新聞や雑誌を読むときのように、必要な情報を探しながら速く読む場合もあるし、文章に速く目を通して話の流れや大意を掴む読み方をする場合もある。例えば論文を読むときのような、複雑な構造の文をじっくりと解読していく読み方だけではない。そこで、日本語の授業でも多様な読み方に合わせた、多様な読解活動が必要となる。

4 技能の向上について考える場合、その言語活動の 本質をまず検討することが、そのための能力をどう伸 ばしていくかを探る第一歩になる。

本講義では「読むこと」とはどういうことなのかを 考えつつ、授業を組み立てる際に何に留意すべきかをグ ループワークを通して話し合い、効果的な授業を考えた。

講義⑤:聞くことを考える

日本語能力試験の聴解部分の点数は、日本国内の日本語学習者より海外の学習者のほうが低い。「聞くことを考える」では、海外でも生徒の聴解能力を効果的に伸ばせるよう、普段の聴解の教え方について振り返ってもらった。

具体的には、まず、日常生活の聴解で起こっていることとはどのようなことかを振り返り、意識し直すことで聴解指導の目標を再確認した。次に、情報選別、予測、推測、質問といったストラテジーの練習法を紹介した。その後、NHKニュースを素材に、学習した理念に基づいて、実際に聴解の授業を作成してもらった。最後に、聴解授業が終わった後に、どのように語彙や文法の定着を行うかを、ディクテーションやディクトグロス(文の再生)などの方法を通して体験した。聴解指導には日々悩んでいる教師が多く、実際に自分の現場で試してみたいという声が多く聞かれた。

講義⑥:話すことを考える

まず、「話すこと」が上手/下手という判断は、何を基準にしているのか、ACTFL-OPI(全米外国語教育協会口頭表現テスト)を例にあらためて考え、その上で学習者の目標を段階的に設定しているかどうかを振り返った。また、実際にロールプレイを体験しながら、「話すこと」の本質を捉え直し、「話すこと」とは「話し手と聞き手のコミュニケーション」であるということを確認した。さらに、そのコミュニケーションに必要な4つの能力、①文法能力、②社会言語能力、③談話能力、④ストラテジー能力をバランスよく伸ばすことの重要性についても確認した。

最後に、話す力を育てる具体的な教室活動を紹介しながら、各活動に話すプロセスがどう織り込まれているか、また、コミュニケーションに必要な各能力が意識されているかなどを振り返った。また、第二言語習得理論に則して、インプットからアウトプットへの流れを意識した授業展開や、学習者の気づきを促す工夫の大切さについても確認した。



講義⑦:学習を評価する,JF日本語教育スタンダード

JF 日本語教育スタンダード(以下、JF スタンダード)は、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールである。JF スタンダードを使うことの意義は、日本語で何がどれだけできるかという熟達度がわかることである。また、コースデザイン、教材開発、試験作成にも活用可能である。

JF スタンダードは、ヨーロッパの言語教育の基盤である CEFR(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の考え方を基礎にして作られたものである。 CEFR はヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組みであり、2001 年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く着目され、各言語で実際に利用されるようになった。

今回の講義ではJFスタンダードの理念をお話しした後、日本語の熟達度を「~できる」という形式で示した「Can-do」を実際に見ながら、言語活動とその熟達について考察した。その後、実際に授業の中でどのように活用できるかを、自身の現場を振り返りながら、主に目標設定・課題設定と評価という視点から考えた。ポートフォリオの使い方も紹介した。特に評価については普段から問題意識を抱えた教師が多く、ポートフォリオや評価について自身の実践の中に様々な形で取り入れられていた。

参考:「JF 日本語教育スタンダード」http://jfstandard.jp/

ティーチング・ポートフォリオ

研修前に事前課題としてティーチング・ポートフォリオのスタートアップシートを提出し、各自、日本語教師としての自分の経験を内省した。その後、研修を通して、参加者は毎日、研修ポートフォリオを記述、講師に提出し、講師からのフィードバックを受けた。学びを記述することは、多くの情報量の整理に役立っていたと思われる。

また、最終日までには、ティーチング・ポートフォリオを完成させ、自分の教育理念、教育方法を考える機会とした。残念なことに、実践研究計画をたてることに時間を取られ、ティーチング・ポートフォリオの共有は十分な時間が取れなかった。来年の課題としたい。

優秀レポート紹介

11月に実践研究レポートを提出した19名の中から、2点の優秀レポートが選ばれました。選ばれたのは、李同艶さん (天津財経大学)、陶鳥雲さん(瀋陽師範大学)のレポートです。以下、2名それぞれの実践研究レポートをご紹介します。

科学技術日本語読解授業における ピア・リーディングの実践

―学習者のモチベーションアップを中心に―

李同艳 天津财经大学

1 実践の背景

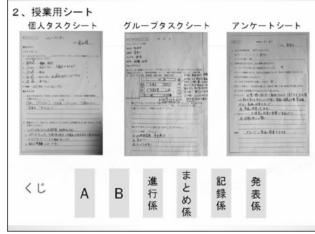
本学では、日本語学科4年生前期を対象に2002年から科学技術日本語読解授業を開講している。卒業を控え、大学 院の入試準備や実習、就職活動に追われている学生が多いた

め、授業に参加しようとする学生の数が非常に限られている。 従って、学生たちの授業参加の意欲をアップさせるには、工

夫を凝らす必要があると考えている。

しかし、従来のやり方のように、読解の授業では、言語知 識の学習に労力と時間が費やされている。また、内容の理解 については、教師が質問し学生が答えるという形式で練習問 題の答え合わせが多く行われている。このような教師主導の 一斉授業では、学生間の話し合いがあまりなく、学生の主体 性もあまり重視されていないため、学生のモチベーションも 低く、授業は暗い活気のない雰囲気になりがちである。

いかにして学生のモチベーションをアップさせるか、改善



発表 PPT より

案として、ピア・リーディング活動を試みる。ピア・リーディングとは学習者同士が助け合いながら対話的に問題解決 を行い、テキストを理解していく読解の活動であり(舘岡 2005)、その一つの大きな特徴は学習者同士の話し合いを 非常に重視することである。このピア・リーディングを科学技術日本語読解授業へ導入する可能性を検証し、さらに、 それが学習者のモチベーションアップにつながるかどうかを検証するため、2013年9月26日、10月18日の2回 にわたって実験授業を行った。本稿では10月18日の実験授業について報告する。

2 実践の概要

• 実施時間: 2013年10月18日

・活動内容:「日本のコンビ二事情 PART I」

・使用テキスト: 陳瑞英『現代科技日語』22~28 頁 UNIT2 (浙江大学出版社)

• 授業対象: 大学四年生前期

クラス全員 17 人 出席者 9 人 (欠席の内訳: 実習中 4 人 留学中 2 人 面接試験で欠席 1 人 病欠 1 人)

・授業目標:ピア・リーディングの話し合いを通して、日本のコンビ二事情への理解を深化させると同時に、 仲間同士のズレや学び合いの楽しさに気づかせ、学習者のモチベーションアップを図る。

田舎すてもの・ パソコン ニナフト カフカシ(一ト(畑) 卦0枚) カフカシ(一ト

• 授業時間: 90 分

• 実施手順:

用意するもの: パソコン、テキスト、タスクシート(個人 計9枚)、タスクシート (グループ AB 計2枚)、アンケート(計9枚)、くじ引き用紙、 録音用ケイタイ(2台)、録画用ケイタイ(1台)、タイマー			
	手 順	所要時間	配付物
1	【導入】 日本のコンビニの写真を見せながら、 中国のコンビニとの違いについて考えてもらう。	8分	-
2	【流れ】の説明 教師から今日の授業の流れを説明する。	2分	_
3	【個人タスク】 各自に個人タスクシートを配付 テキストについて各自読み、個人シートに解答	20分	個人タスクシート (9 枚)
4	【グループ分け】 くじ引きで9人の学習者をグループA,B に分ける。同じグループのメンバーがいっしょに集まる。 (追加事項: 机はそのまま移動せず、椅子だけ移動し前後 左右で四人組と五人組を作る。男子学生が固まらないよう に調整する。)	2分	A と書いてあるくじ (5 枚) B と書いてあるくじ (4 枚)
(5)	【役割分担】 各グループ内で進行係、記録係、まとめ係、発表係と書いてあるくじを引き、それによってそれぞれの役割を決める。 (5 人組の場合、くじを持っていない人が発表係となる。)	2分	4つの役の書いてある くじ (4枚)
6	【グループタスク】 グループシートを配付 グループで話し合いながら、シートに解答(各グループの 進行係が話し合いの内容を録音し、教師が全体の風景を録 画する)	30分	グループタスクシート A、B(2 枚)
7	【発表と意見交換】 各グループの発表係(4人組の場合、まとめ係と二人で) がクラス全員の前でグループタスクについての話し合いの 結果を発表する。そして、ほかのグループからの質問に答 えたり、全体の意見交換をする。(録画)	20分	_
8	【内省活動】 アンケートを配付、アンケートに記入	5分	アンケート (9枚)
9	【シートの回収】	1分	_

3 結果と考察

個人タスクシートの解答とグループタスクシートの解答を比較しながら、グループ話し合いの録音の文字化資料も参 考にし、学習者が話し合いを通してお互いのズレや学び合いにどれくらい気づいたかを A グループを対象に考察を行う。 また、学習者のアンケートのデータにもとづき、この方法が学習者のモチベーションアップにつながったかどうかを検 証する。

3-1 A グループの話し合いについての考察

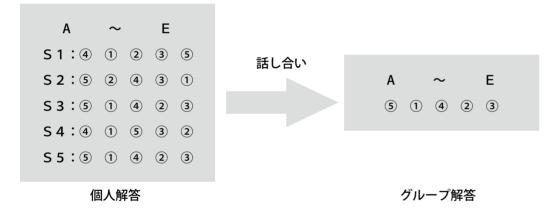
個人タスクは以下のようなものからなっている。

- (1) 各自で声を出さないで本文 1 のPART1を読みなさい。わからない言葉や表現を___に書きなさい。
- (2) 普通のスーパーと比べて、日本のコンビニにはどんな特徴があると思いますか。3つ以上挙げてください。
- (3) テキスト P22 問題2. ①~⑤のどれかをA~Eの___に入れてください。それぞれの理由も 考えてください。

それに対して、グループタスクは以下のようである。

- (1) 個人タスク(1)のわからない言葉や表現について話し合いましょう。話し合いを通してわかったものとには○をつけてください。相談してもわからないものを___に書いてください。(辞書を引かないでください)
- (2) 個人タスク(2)について話し合いながら、まとめてみましょう。
- (3) 個人タスク(3)の課題についてグループ内で話し合いましょう。話し合いのプロセス は進行係が録音してください。 (録音効果確保) そして、相談の結果を発表しましょ う。発表の要求: 2人で(まとめ係 発表係)見取り図で 黒板を利用

紙幅の関係で、タスク(3)のみについて詳しく考察したい。



上の図が示すように、個人タスクの場合、解答にはばらつきが見えたが、グループでの話し合いを通して、一つの答えにまとまった。どういうやり取りをしたのか録音の資料を分析してみる。

発話 番号	学生 番号	発話
1	AS1	我觉得 A 应该是那个冷冻食品。【A は冷凍食品だと思う】
2	AS2	冷凍食品?
3	AS1	就是弁当。收银台前面不是微波炉吗?冷冻食品拿到后面加热。 【弁当だ。レジの前は電子レンジじゃない?冷凍食品を後ろへ持っていって加熱する】
4	AS3	A 应该是ガム,反正中国是那样的。【A はガムだと思う。中国ならそうだけどね】
5	AS2	ガム肯定不是在那个地方的,我好像在日剧里看到过的。 【ガムはきっとあそこじゃないよ。日本のドラマで見たことがあるような気がする】
6	AS3	あ、そう。
7	AS4	じゃ、A は何?

8	AS2	A 应该是卖烧烤之类的东西,比如ソーセージ什么的。 【A は焼いたものとか売っているかも。たとえば、ソーセージなど】 レジに近いから、便利です。
9	AS5	ソーセージ?
10	AS2	就是烤肠。【烤肠という意味だ】
11	AS1	嗯,有道理。【うん、そうだよね】
		· · · 中略 · · ·
33	AS1	我觉得B和E都有可能是冷蔵庫的地方。【BもEも冷蔵庫の可能性がある】
34	AS2	可是 E···【でも、E は···】
35	AS1	噢, 对对对, 人口在这儿是吧, 对着大街。 【ああ、そうそう、入り口はここだよね。街頭に向かってて】
36	AS3	那E就不是了呗。【じゃあ、E は違うよね】
37	AS2	E 应该是放杂志的地方,这样一挡,从外面就看不到里面的样子了。 【E は雑誌を置くところだと思う。 こうして遮ったら、外から中の様子が見えなくなるから】
38	AS3	是因为这个原因吗? 是不是为了让外面的人看到杂志的封面,吸引他们进去啊? 【それが理由かな。店内へ呼び込もうと雑誌のカバーをわざと見せるからじゃないの】
39	AS1	哎,也有可能啊。【へえ、それもあるかもね】

A が何を置く場所なのかについて、最初は AS1 は冷凍食品 (1)、AS3 はガム (4) だという意見であるが、AS2 はドラマで見たという情報を提供し (5)、その情報に基づきながら、理由を述べ、「ソーセージ類だ」という意見を出し (8)、AS1 に認められる (11)。その後、AS1 は「Bも Eも冷蔵庫の可能性がある」とコメントするが (33)、AS2 の注意を受け (34)、自分の意見を修正する (35)。

以上の考察から、学習者が話し合いを通してお互いのズレに気づきながら、学び合う姿が窺える。

しかし、問題点もある。まず、A グループは 5 人のメンバーからなっているが、それぞれの発話回数にはばらつきが明らかに見える。統計結果によると、39 回の発話の中で、AS1 は 12 回、AS2 は 13 回、AS3 は 8 回、AS4 は 4 回、AS5 は 2 回となっている。この不均衡の発話状態から、AS1 と AS2 がグループ話し合いの中心になっており、AS4 と AS5 の参加度が非常に弱いことがわかる。次に、以上の文字化した資料からわかるように、話し合いの使用言語はどうしても母語になってしまうのである。日本語の授業なので、できるだけ日本語を使うべきだと考えている。

3-2 アンケートについての考察

事後に行ったアンケートは以下のようなものである。

授業を振り返りながら、次の質問に答えてください。

- 1、グループでの話し合いは勉強になりましたか。
 - (1) たいへん勉強になった (2) まあまあ勉強になった (3) あまり勉強にならなかった
 - (4) ぜんぜん勉強にならなかった
- 2、このような学び合いは楽しいですか。
 - (1)たいへん楽しい (2)まあまあ楽しい (3)あまり楽しくない (4)ぜんぜん楽しくない
- 3、今日の授業でいいと思ったこと、よくないと思ったことなど、自由に感想を書いてください。

アンケートの回答をまとめた結果、質問1に対して、回答者9名のうち、(1)と答えた人は7名、(2)と答えた人は2名となっており、質問2に対する答えは質問1と同じ結果であった。自由記述式の質問3に対しては、いいところとしては「気楽で、ストレスを感じない」、「楽しくて面白い」、「モチベーションが高い」、「お互いに学びあうことができ、とても勉強になる」「チームワークを高めた」、「それぞれの責任がわかる」などの意見が記述される一方、よくないところとしては、「人数が少ないので、ちょっとさびしい」、「内容がちょっと単調である」、「発言意欲が違う」、「授業の進みが遅い」「時間管理をしっかりしたほうがいい」などの否定的意見も出された。このアンケートには質問項目が少ないという大きな欠点があるものの、回答からわかるように、学習者はこのような授業の進め方を大いに認めると同時に、「時間管理」や「内容選別」などの問題点も提示した。

4 まとめと今後の課題

学習者のモチベーションアップを図るため、科学技術日本語読解授業においてピア・リーディングを実践した。本稿では、ピア・リーディングの一環である話し合いを通して、仲間同士のズレや学び合いの楽しさを学習者に気づかせ、さらにそれが学習者のモチベーションアップにつながるかどうかを焦点に考察を行った。グループ話し合いの録音資料を分析した結果、学習者が話し合いを通してお互いのズレに気づきながら、学び合えることがわかった。また、アンケートの回答から見られるように、「授業が楽しかった」「モチベーションが高い」という学習者の肯定的な感想が多く出されたので、仲間同士の学びあいの楽しさを気づかせることができ、モチベーションアップにもつながったと考えられる。以上の考察の結果から見れば、今回の実践の目的は基本的に達成できたと言える。

しかし、アンケートの回答には授業の時間管理や内容選別についての意見や改善案が出されたので、今後の課題として検討していくことが必要であろう。また、今回の実践は話し合いそのものを焦点に行ったが、今後話し合いが各自の読みにどう働きかけるのか、そして母語使用に対する容認度や改善方法についてさらに検討していきたい。

【参考文献】

- (1) 池田玲子・舘岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- (2) 舘岡洋子 (2005)『ひとりで読むことからピア・リーディングへ』東海大学出版会
- (3) 杉江修治 (2011) 『協同学習入門』ナカニシヤ出版
- (4) 杉江修治・関田一彦・安永悟・三宅なほみ (2006)『大学授業を活性化する方法』 玉川大学出版部
- (5) ドルジ,ネルグイ (2012)「モンゴルの中等教育における協働的学習の導入 ーパーシャル・イマージョン校での読解活動を通して一」『日本言語文化研究会論集』8号
- (6) 易暁莉(2007)「中国における読解授業の現状とピア・リーディングの試み―上級学習者を分析対象にして―」 『日本言語文化研究会論集』 3 号
- (7) 久野由宇子 (2007)「ピア・ラーニングを取り入れて口頭表現力を延ばす方法を探る」 WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』
- (8) 赵冬茜(2011)「合作学习在日语听力教学中的实践与探索|『天津外国语大学学报』Vol.18 N.6

自己評価による学生の意識変化に関する実践報告

陶乌云 沈阳师范大学

教育現場では、「日本語の勉強に興味があまりない」、あるいは「勉強意欲はあるが、何をどうやって勉強するのか分からない」と言う学生は少なくない。この度、自己評価を通して、そういう学生の自主学習意識を育てる実証研究を試みた。

1 実践の概要

1-1 目的

学生が自ら学ぶ意欲を引き起こすための指導法はさまざま あるが、本実践では、授業に自己評価活動を取り入れ、それ を通して学生の自主的な学習意識を育てることができるかど うかを証明したい。

1-2 対象者

実践の対象者は瀋陽師範大学日本語科の一年生 21 名(1つのクラス)で、日本語はほとんどゼロスタートである。1人だけは1年間ぐらいの日本語学習歴がある。

分 析

■学生側の意識変化

(1) 意識段階

例:「センテンスを読むとき、切れ目と助詞が重な るところのアクセントは把握できない」 (評価シートの自由記入より)

(2) 反省段階

例:「練習不足」

「授業中、間違いを心配して手をあげない」 (個別指導の発言と評価シートの自由記入より)

(3) 改善段階

例:「よく本文の朗読をする」「教科書の録音をちゃんと聴く」「寮でクラスメートと勉強した単語でコミュニケーションをする」 (個別指導の発言と評価シートの自由記入より)

発表 PPT より

1-3 授業の概要

主幹科目の1つである「総合日本語1」という授業で実践した。その授業の具体的な概要は以下のようである。

学年	受講者数	時間	教科書
1	21 人	週8コマ (1コマ45分)	『新編日語』(修訂本)第1冊

|目的:日本語の発音・表記から習い始め、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能を育成 |するための全面的な訓練を行い、他の科目の基礎となる。その授業を通して、学生に日本・ |日本語に対する基本的な知識を教える。

*新入生は入学直後、1ヶ月ほどの軍事訓練があるので、実際に日本語の授業が始まるのは9月28日からであった。

教科書の第1課は五十音図で、つまり清音のみであり、第2課以降は本文と会話文も含む内容である。濁音、半濁音、長音、促音、拗音(拗長音)は第2課~第4課に分けているが、発音指導の便宜上、また、11月中旬の発音テストのため、第1課の段階で、清音以外の発音もまとめて教授した。このように、発音の段階で1ヶ月間ぐらいかかったのである。その後、第2課「はじめまして」に入った。今回、発音の指導を第1回、自己紹介の指導を第2回と分けて学生に自己評価をやらせた。

1-4 自己評価の概要

自己評価の観点は筆者によって作られ、四技能別に記入されたものである。

例:1回目の自己評価シート(原文は中国語)

A:できる $B:$ ほとんどできる $C:$ 少しできる $D:$ ぜんぜんできた	ない
《聴く》	(回答欄)
1.授業が始まる時と終わる時のあいさつが聴いてわかる。	
2.先生やクラスメートがどの仮名を読んだのか聞き分けられる。	
3.自分の発音が他人の発音と違う時があると聞き分けられる。	
4.単語のアクセントの区別が聴いてわかる。	
5.聴く活動を通して単語のアクセントを判断することができる。	
《話す》	
1.授業が始まる時と終わる時、日本語であいさつできる。	
2.習った内容をまねて簡単な文が話せる。	
《読む》	
1.五十音図順でない場合も仮名を見てすぐ正確に読むことができる。	
2.発音練習の早口言葉を流暢に読める。	
3.単語を読むとき、一つ一つの仮名は正確に発音できる。	
4.表記したアクセントに基づいて単語を正確に読むことができる。	
《書く》	
1.五十音図を空で書くことができる。	
2.聴いた平仮名と片假名を正確に書くことができる。	
3.習った単語の常用漢字(特に中国語の漢字と異なるもの)が書ける。	

1-5 方法

事前意識調査→授業活動の自己評価→指導→自己再評価→意識再調査のプロセスで、自己評価活動導入前後の学生の学習意識を比較して分析する。具体的には、最初の日本語学習に対する意識を調査し、前述した2つの段階の授業の過程で、自己評価シートを学生に配ってやらせる。その次、必要な場合の指導と指導後の自己再評価をやらせる。2回の自己評価活動が終わってから、再び日本語学習に対する意識に関するアンケート調査とインタビューをする。最後に、自己評価活動導入前後の学生の意識の変化を比較して分析し、結論を出す。

2 実践の流れ

2-1 事前調査

クラス全員を対象に、短いインタビューの形式で、学習意欲・日本語学習に対する意識についての調査をした。調査 した結果、日本語にあまり興味がない学生が3人、また、日本語に興味を持っていて、何をどのように勉強したらいい のか、またどの程度できれば「日本語ができる」と言えるのか知りたい学生が12人ぐらいいた。このような結果から、 学生の興味と自ら学ぶ意欲を引き起こす指導が必要であることを確認した。

2-2 共通する流れ

事前調査の後、実践は9月の末~11月中旬(国慶節の1週間の休みは除外)の期間で2回やった。1回目は発音の指導が終わった後行われ、2回目は自己紹介の内容が終わった後であった。実践の共通する流れは以下のようである。

(1) 学生による自己評価

学生に自己評価シートを配り、その自己評価シートに基づいて自分の学習効果を評価させる。自己評価シートは筆者が作ったもので、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能別に、「~できる」のような形式で記述したものである。選択肢として、Aできる、Bほとんどできる、C少しできる、Dぜんぜんできないに分けた。また、シートの評価観点以外にもし何か問題点が発見した場合、自由記入も許可した。

(2) 問題解決の指導

学生の自己評価シートに基づき、普遍的な問題点を抽出して授業中全体的な指導をした。必要に応じて個別指導もした。

(3) 自己再評価

自己評価活動導入前後の学生の変化を調べるために、1つの段階が終わってから2週間後、学生に自己評価シートをもう一度読んでもらい、自分の変化を意識させた。同じ基準で評価する方が、変化がはっきり見えるので、この自己再評価で使った評価シートは、前の授業活動の自己評価シートとは同じものである。

2-3 実践例

以下は、1回目の実践を例にして、全過程を記録した内容である。

(1) 学生による自己評価

発音の教授が終わり、1回目の自己評価をやらせた。回収した評価シートから主に次のような問題点が現れた。

■評価シートの内容より

評価の観点(原文は中国語)	できなかった学生数
①聴く活動を通して単語のアクセントを判断することができる	9人
②表記したアクセントに基づいて単語を正確に読むことができる	8人
③単語を読むとき、一つ一つの仮名は正確に発音できる	5人

■自由記入の内容より

評価の観点(原文は中国語)	学生数
④アクセントの意味はわかるが、自分で発音するときやはり区別できない	6人
⑤五十音図の順番で仮名を書くのはできるが、単独ではできない	5人
⑥平仮名は書けるが、カタカナは書けない	5人

(2) 問題解決の指導

以上の問題点の中、③、⑤と⑥は熟練度の問題で、さらに多く練習すれば普通は問題はない。しかし、①、②と④は 原因が同じでない可能性があるので、個別指導をした。

問題点を提出した学生に聞いた結果、①、②と④には共通する原因があることがわかった。つまり、日本語のアクセントの「高」と「低」が理解できなかったのである。そのため、アクセント核は正確に把握できない。「高」とは強調するところで、中国語の四声の「去声」に当たると理解している学生が 2、3 人いた。そういう学生に対しては、まず日本語と中国語のアクセントの区別を説明した。それから、基本的な音楽の知識を活かして「高」と「低」を体験させた。そのようにしてもまだうまく読まない学生に、まず単語のすべての仮名を同じ 1 つの仮名に置き換え、違う高さで読ませた。アクセントの「高」と「低」を認識できた後、その単語の元の仮名に還元して発音させた。仮名の発音とアクセントの高低と両方注意しながら読むのは、初級段階では少し難しいようである。この「置き換え法」で練習する場合、まずは同じ仮名なので、アクセントの高低にだけ集中すればいい。アクセントを把握できたら、元の違う仮名に換えてもそれほど難しくなく、非常に効果があった。

また、②には、仮名の読み方の間違いもしばしば出てきたので、アクセントの理解だけではなく、仮名を読む練習も指導した。

(3) 自己再評価

1回目の自己評価が終わった 2週間後、学生に当時の自己評価シートの観点に合わせて再び自分で評価をさせた。その場合、18人が「最初は C か D だったが、今は A か B を選ぶことができて、自分の日本語は上達したように感じられた」と答えた。

3 実践の結果

実践中、全員まじめな態度で自己評価シートに自分の状況を記入した。そして、シートの観点以外もいろいろ書いた。 1回目の段階で自由記入をした学生数 19 人で、2回目の段階では 18 人であった。自由記入した観点数もいずれも 10 以上あった。おかげで個別指導も順調であった。

また、2回の実践が終わった後、このような自己評価を取り入れた学習活動は学生にどのような影響をもたらしたのか、また、学生の意識には変化があったかどうかを究明するために、16 間の無記名アンケート調査をした。認める項目には「✓」、認めない項目には「×」を付けてもらった。回収した有効アンケート数は 20 部であり、代表的な結果は以下の表のようである。

項 目(原文は中国語)	学生数
自分の言語知識の勉強上の不足を発見することに役立った	20人
自己評価を通して、この段階でマスターすべき言語知識のレベルを明確にした	20人
しばらくたってからこの前の評価シートをもう一度読んで、自分で上達したかどうかを再び検証したい	20人
このような自己評価活動はわたしの勉強に適用できて自分の学習効果を測ることに役立つと思う	19人
AかBを選択するとき、達成感がある	19人
自分の言語知識の学習での長所を意識した	19人
今後、グループメンバーがお互いに評価するなどの形式も取り入れて一緒に上達したい	17人
先生が評価シートを配ってくれなくても、今後自分でこの方法を使って学習効果を測りたい	16人
定期的に自分の学習効果を検証する習慣をつけてくれると思う	10人

このような調査結果から見れば、学生たちは自己評価活動が自分の学習には役立っていると認め、今後も続けていけるように思われる。しかし、やや不思議なことに、「定期的に自分の学習効果を検証する習慣をつけてくれる」と認める学生数は最低数の 10 人だけであった。

4 結果分析

4-1 学生側の意識変化

実践の過程と結果からわかるように、大多数の学生は自己評価活動を通して自ら問題点を発見し勉強する姿勢を見せた。そして、もともと日本語にあまり興味がなかった学生も進んで勉強に取り組んでいる。自己評価シートと授業の様子から見ると、学生の意識は以下の順で変化が現れた。

(1) 意識段階

ここができなかったと自分の不足点を意識する。

例:「センテンスを読むとき、切れ目と助詞が重なるところのアクセントは把握できない。」(評価シートの自由記入より)

(2) 反省段階

どうしてできなかったのかと原因を探求する。

例:「練習不足。」「授業中、間違いを心配して手をあげない。」(個別指導の発言と評価シートの自由記入より)

(3) 改善段階

先生に聞くのか、クラスメートと討論するのか、自分でまとめるのか、問題の解決案を考え、自ら進んで勉強する。 例:「よく本文の朗読をする。」「教科書の録音をちゃんと聴く。」「寮でクラスメートと勉強した単語で コミュニケーションをする。」(個別指導の発言と評価シートの自由記入より)

個別指導中、話し合いながら必要な内容をメモした。次の努力する目標について話し合った学生も 5 人ぐらいいた。 このように、言語知識をマスターし、コミュニケーション能力を向上させる意欲や学習方法の改善を追求した変化が見られた。

しかし、問題点がないとも言えない。例えば、「自分の言語知識の勉強上の不足を発見することに役立った」と全員認めたが、「自分のコミュニケーション能力の不足を発見することに役立った」を選んだ人数は 16 人であった。つまり、コミュニケーション能力より、この段階の学生は、やはり言語知識の積み重ねにさらに注目していると言える。また、「定期的に自分の学習効果を検証する習慣をつけてくれると思う」人も少ないという結果から見れば、自己評価活動にはまだ改善すべきところがあるように思われる。

4-2 教師側の意識変化

筆者自身からも発見があったのは予想外の結果である。最も実感があったのは、アクセントの指導上、「高」と「低」の区別を理解してもらうために使用した置き換え法である。この方法は、個別指導中突然閃いたものだとも言える。ほかには、センテンスの読み方については、ビルド・アップ練習法も適用した。

5 今回の実践の問題点と今後の課題

今回の実践には問題点もいろいろあると思われる。短期間だったため、長期間続けたら効果はどうなるのかまだわからない。今後、学生にも評価シートの観点の作成に参与させる可能性、自己評価の習慣を定着させるためにやるべきこと、または自己評価だけでなく、グループ内の評価を取り入れる効果なども考慮に入れたい。

【参考文献】

高见泽孟著 黄文明编译(2009)《日语教学法人门》外语教学与研究出版社

国際交流基金(2011)『学習を評価する』ひつじ書房

国際交流基金(2009)『音声を教える』ひつじ書房

立田慶裕(2005)『教育研究ハンドブック』世界思想社

優秀レポート講評

【講評者】

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 鈴木今日子

李同艳さん 筋の通った実践レポート

李同艶さんの実践レポートは、実践授業の目的と方法、データの取り方に筋が通っており、読んでいて非常にわかりやすいです。特に、実践方法が、詳細かつ丁寧に記されています。これは、簡単なことのようで、実は簡単なことではありません。今回、優秀賞に選ばれた理由もまさにここにあります。

李さんの実践授業は、元々、学習者の学習意欲を引き 出すのが目的でしたが、学習者の発話を丁寧に分析した 結果、学習者が実際にどのように学び合っているのか、 学習者の参与度の違いなど、李さんの観察の視点が学び の質へと移っている様子も窺えます。李さん自身も、協 働によって「読み」をどう深めるかを今後の課題として 挙げていますが、これからもピア・リーディングを続けて、 さらに授業の質を高めていってほしいと思います。

李さんはこの実践研修を通して、教師としての内省を 深め、次のステップへと進む方向を見出したのではない かと思います。これからも成長する教師であり続けてほ しいと思います。今後の李さんの活躍を期待しています。

【講評者】

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 柳坪幸佳

陶乌云さん 実践における根拠と一貫性

陶鳥雲さんのレポートの特徴は、まず実践の流れに根拠と一貫性があることです。一連のプロセスの中で、何故その段階でその活動を行ったのか、そして活動から導き出された結果が問題意識とどう関連しているかなど、全体を通してつながりがあり、実践の過程が読み手にもわかりやすく伝わってきます。

更に、出てきた結果に対する陶さんの気づきも興味深いものとなっています。ポートフォリオを「対話のツール」として使用することで、学生だけでなく教師自身の発見も促されるというのがその点です。こういった気づきは、案外見落としがちなものなのではないでしょうか。実践研究を行う時、教師は自分が予想する結果につい引きずられてしまうことがあります。その中で新しい視点で発見を行っていくためには、日頃からテーマに対する勉強を進めるとともに、実践そのものを丁寧に組み立て、分析をしていくことが大切なものなのかもしれません。

今後も楽しみにしています。

感想

李同艳 天津财经大学

能够参加首次面向全国高校的 2013 年日本语教育学实践研修,倍感幸运,而自己提交的研究报告在实践研修发表会中被评为"优秀"更是意料之外。十分感谢指导老师和各位学员的支持和帮助。在这里我想谈谈自己的两点感想:

一是对该研修的整体印象。本次研修不同于其他研修的最大特点是周期长、重实践。从8月的暑期研修到12月的实践研究发表,历时近四个月,在此期间学员按照自己的研究课题开展相关教学实践活动,将研修中的所学所感融汇到自己的教学实践中,并形成各自的实践研究报告,最后通过发表和其他学员共享。既有前期的理论铺垫,又有教学实践的验证,很好的体现了本研修的价值所在。

二是研修的成果。在8月的暑期研修中,有幸聆听各位日语教育专家的精彩讲座,收获十分丰厚。专家的精辟观点对自己的教学方法以及教育理念都有相当大的触动。而12月的实践研究发表会更是一次学习交流的盛宴。大家满怀热情地发表了各自的实践报告,彼此都开阔了视野,增进了了解。通过本次研修,加深了学员之间的情谊,交流了信息,增添了互相支持、共同努力的力量,可谓一箭多雕。

最后再次感谢组织者的 辛勤付出,是您们的精心策 划和组织给了我们一个自我 的成长的机会,希望今后还 有这样的研修。



挥洒汗水, 绽放激情

-2013日语教育学实践研修感想-

陶乌云 沈阳师范大学

2013年,我有幸再回母校,参加了由北京日本学研究中心和北京日本文化中心联合主办的 2013日本语教育学实践研修班。本次研修班最大的特点是持续性强。学员在8月份集中学习一周,9月—11月将所学知识付诸实践,11月提交实践报告,12月集中汇报。整个过程让我受益匪浅。

在8月6日-11日的研修学习中,来自全国各地的高校日语教师聚集在北京日本学研究中心,白天听讲座,分组研究课题,晚上回到房间写作业,与室友讨论所学内容。一周的生活紧张而忙碌,尽管有些累,但似乎每一分钟都过得无比充实。12月,大家重逢在北京,交流一学期的实践成果与心得。我的实践报告还有幸被评选为优秀报告之一,这对教学经验尚不丰富的我来说是一个极大的鼓舞。两年半前,自己还是坐在讲台下仰视大师的学生,这次竟有机会作为优秀者站在台上向专家与同行做汇报,分享经历,心情十分激动。在此过程中不仅听到了宝贵的专家意见,而且参与了同行之间的经验交流,这将成为我日后工作的强大动力。

从夏到冬,从学习到实践,感谢精心授课与悉心指导 实践报告的中日双方专家,感谢主办方细致周到的安排,

感谢一路相互鼓励支持而来 的研修同伴。教育事业任重 道远,在今后的教育教学工 作中,我将带着收获的宝贵 经验继续奋进!



実践活動紹介

提出されたレポートの中には、多くの意欲的な実践がありました。そのうち7名分の実践を、手順とともにご紹介します。 興味のある実践は、ぜひクラスでも試してみてください。

在提交的报告之中,有很多充满热情的实践。我们将会按顺序介绍其中的7个。如果您有感兴趣,请务必亲身实践。

実践紹介①

【産出能力を催す日本語教育に対する実践研究-「基礎日本語」を例として】

基礎日本語の授業において、本文を学習する前に、内容を提示して学習者に会話を作らせ、その後、本文と比較し、違いや誤りを考え させるという実践授業を行った。その結果、学習者が自身の不足に気付いて学習意欲が高まり、能動的に授業に参加するようになった。

一起来构造我们的"词汇联想地图"

王月婷 大连理工大学城市学院

背 景

在教学改革中,"提高学生的创新思维和合作学习的能力"一理念 得到了广大教师和学生的认可与重视。在实际的日语教学课堂中, 如何让学生主动地发现问题、分析问题和解决问题,是教师在进行 教学设计时不得不思考的问题。为此,笔者在《基础日语》授课时 尝试实施了让学生制作"词汇联想地图"的教学实践活动。在此谨 做简单介绍。

课程介绍

课程名称 · · · 基础日语 (三)

学年·····日语专业二年级学生(ト学期)

人数 29 人

使用教材···《新大学日本语》第二册

(大连理工大学出版社第2版 2007)

需要的时间: 90 分钟

课前准备··· A3 白纸 6 张

(用于绘制"词汇联想地图")

实践 概要

本实践活动安排在某一课授课内容全部结束后的习题课中进行。目的为:①考察学生对于当课所学内容的掌握情况; ②将学生分组,协同合作围绕课文中的中心词制作"词汇联想地图"。旨在调动学生在课堂中的积极主动性、培养 学生创新能力和自主学习的意识,构建以学生为主体的互动式课堂。

◎实施方法

我校日语专业二年级上学期开设的《基础日语(三)》这门课程所使用的教材是 2007 年印刷出版的《新大学日本语》第二册。每 课内容由"会话""句型及语法解析""课后练习""生词表"四部分构成。按照本校教学大纲规定每课由8课时(每课时为45分 钟)完成授课,分别为:单词(2课时)、句型讲解(2课时)、会话讲解(2课时)、习题课(2课时)。 本实践活动安排在习题课的2课时中进行。以下以其中"第十五课 忘年会"为例,对本实践活动的具体实施过程进行介绍。

课文内容设置

以第15课课文 内容为基础, 教 师提炼出两组关 键词:分别为"忘 年会(忘年会)" 和"大晦日(除 夕大年夜)"。

(2)分组(5分钟)

将全班同学分组. 原则上每组5人。 将全班 29 人分 6 组,其中5组为 5人一组,第6 组为4人一组。

1-3 组分配的中心词为"忘年会(忘年会)" 4-6 组分配的中心词为"大晦日(除夕大年 夜)"。各组领到中心词后,与同组成员开始 讨论制作, 在 A3 纸上绘制 "词汇联想地图"。 例如:由"大晦日"可以联想到→"祝日を 祝う", 然后由此可以联想到→"家族がそろ う", 由此可以联想到→紅白歌合戦が行われ る……。教师可在此过程中全班巡视,及时 回答学生的疑问并掌握每组的完成情况。

(4)发表(45分钟)

选出其中2-3组. 将绘制的"词汇联 想地图"一边誊抄 在黑板上,一边为 全班同学讲解本组 "词汇联想地图"的 创作过程。





实践 结果

在习题课堂中运用"词汇联想地图"的教学实践活动,在一定程度上改变了传统习题课中以教师讲解语言知识和 机械训练为主的教学模式。在语言的输出过程中,让学生能够体会到用简单的语言有层次,有逻辑地表达相对复 杂的思想内容的过程,真切地感受到日语学习的兴趣并培养协同合作学习的意识。

実践紹介②

【語彙教育において場面づくりに留意した教授法の導入探索】

語彙の使用場面を重視した教授法を取り入れるため、トップダウンモデルの読解授業を行い、語彙の意味を予測する授業、場面 と共に語彙を定着させる授業を試みた。事前に語彙に対する学習者の意識を調査した。試行クラスと通常クラスのテストの結果 を比較、最後にアンケート調査も行った。

日语词汇哪还有那么难?!

刘金凤 无锡职业技术学院

참 몸

随着日语学习的不断深入,二年级后学生对日语词汇的学习出现了 很多的困扰,并开始寻求我的帮助。例如

- 1、机械的背记单词,无法灵活、准确的运用。
- 2、背过的单词一段时间不用就很快忘记。
- 3、会话表达中,从语法及词汇的用法看都是正确的,然而从语境 讲行判断, 却存在不自然的现象。

因此, 我开始关注词汇教学, 欲寻求一种更合理、更科学的词汇教学法。

课程介绍

课程名称... 日语基础 V 学在..... 三年级上

人数......33人

使用教材...《实用日语4》第三课宇宙开发实用会话

P32-34 陈百海(高等教育出版社)

需要的时间. 2 节课 (45 分钟 × 2 = 90 分钟)

实践

首先将会话中的新单词按照是否有汉字进行分类。与中文意思相同的汉字 不做重点讲解,读音可以根据"音读对音读、训读对训读"的规律进行猜 测。针对无汉字的词汇、多义词、中日同形异义词采用图片或情境对话的 形式猜测词汇的意思、并结合具体场景掌握词汇的用法。例如:「きつい」

◎实施方法

教学环节	教师活动	学生活动	设计意图	时间
1、导入	关于"宇宙开发"能联想到的事情或词汇,可小组讨论。(語彙マップ運用)			10分
2、授课模式说明	关于整体教学法、情景 教学法、猜测教学战略 的模式和基本教学流程 向学生进行介绍。		便于学生明确其与传统教学 模式的不同。一定程度上排 除学生面对新教学法的不 安,以便于后面的猜测战略 和情景教学法的导入。	2分
3、会话	请学生分角色朗读会话, 针对语音语调进行点评。	朗读/听会话。	通过朗读对会话内容有个初步的了解。会话中的新词汇有注音假名,故学生可以读出来。	15分
4、单词划分	请学生设定自己的重点词汇。	朗读会话, 划分词汇。	带汉字的词汇可猜出单词的 意思。可将陌生词汇作为重 点词汇学习。	5分
5、会话 讲解 1	请学生翻译会话内容。 重点掌握句子意思及表 达。结合上下文猜测新 词汇的意思。	朗读并翻译。 猜测新单词的 含义。	翻译可检查学生对会话内容的理解度。猜测意思,可以培养学生猜测的信心,降低对陌生词汇的不安感。	25 分
6、会话 讲解 2	对无法猜测的词汇,给出情景图片等辅助理解。	根据所给情景 图片或对话等 信息进行猜测 和练习。	让学生在掌握词汇意思的同时,了解词汇运用的具体场景和方法,培养学生运用日语的表达能力。	20分
7、句型	请学生从句型的构成出 发,判断句型的用法和 意思。	基于前面的学习积累,判断 句型的意思及 接续。	机械地记忆句很快就会忘记,让学生从句型结构的根本出发,理解、掌握句子的意思和接续,记忆更长久。	10分
8、作业与答疑	布置作业: 小组完成拓展练习(例: 编写吐槽情景剧, 要求出现连语"愚痴をこぼす"),答疑。	课堂后完成 作业。	通过练习加强、巩固所学知识;通过小组活动培养合作意识。	3 分钟





きついお酒は飲かないが、 ビールなら大丈夫



实践 结果

实践结果采用试卷测试和问卷调查两种 形式获取。测试结果是实验班和非实验 班的成绩差距不大,未获得预期的结果。 但问卷调查显示学生很喜欢新的教学模 式和教学方法(调查对象三年级1个班 共29人)。

今后 研究 课题

- 1、探索其他的更科学更合理的实践结 果检验方法。
- 2、如何将课程的内容有效地反映在考 试中,通过考试反映教学效果。

実践紹介④

【精読授業における協働学習の実証的研究-専門学校の学生を対象にする】

専門学校の学生を対象にして、精読授業にグループワークを実施して以下のことを課題とした。課題1:学習者はグループワークをどう受けているか。どのように評価しているか。課題2:協働学習は日本語の学習にどんなことが有利で不利なことは何であるか。調査は「単語練習」と「会話練習」に対して行い、ビデオと録音をした。アンケートも二回実施し、学習者の協働学習に対する意識を調査した。

令学生兴奋的日语精读课

纪艳红 上海市民远职业技术学院

背景

本人从 2011 年在上海市某专科院校就职以来,一直在教精读课。就我自己的 经验来看,专科院校和本科院校的学生有着很大差异。首先,专科院校的学生 缺乏耐性和持久性,而相反他们喜欢多样化的教学方法。其次,大多数学生不会一丝不苟,认认真真地学习,但他们思维活跃,富有创新精神,愿意去尝试体会新事物。还有,他们喜欢日语,但不愿意安静地面对枯燥的日语。针对这些学生的特点,本人尝试了新的教学方法,试图提高初学者的学习热情。

课程介绍

课程名称... 日语精读

学年.....一年级第一学期

人数.....17人

使用教材...《新编日语》(修订版)

周平、陈小芬 上海外语教育出版社

需要的时间. 每次 45 分钟, 一周一次

实践 概要 在学生学完五十音图以后,开始利用这次课题进行了会话练习。班级每一个月通过抽签形式来组成小组,本班共 17 人,所以三人组共三组,四人组共两组,一共五组。如果教师发现小组成员水平相当的话,要进行调整,即保证水平高的学生和水平低的学生在一组。每次课题由教师来准备。本次实践时间从 10 月中旬到 11 月中旬,每周一次共进行 4 次。每次实践都进行了录音和录像,从而全面地,准确地分析了本次活动。

◎实施方法

(1) 课题讲解(5分钟)

每个小组课题不同,由学生自己来选课题,讲解课题要求,因为是初级阶段,本人要求写出 20 句会话。随着学习的内容增加,及时提高要求。比如:课题讨论前 5 分钟不准说汉语,必须用上 10 个形容词,5 个形容动词等内容。每次课题要求都不同。发表形式,小组中必须有一个同学做主持人,介绍课题,对本小组会话内容进行讲解和总结,小组其他成员表演会话。在学生习惯了这种练习方式以后,可以适当缩短时间。

(2) 各小组讨论 完成课题(15分钟)

每个小组就课题讨论,并把会话内容 写在纸上,因为初 级的学生经常书写 错误。

(3) 课题发表(20分钟)

每个小组给大概 4 分钟时间发表,主持人进行讲解,分析和总结。其他成员表演会话内容。如果时间紧张,可以抽几组同学发表。

(4) 总评(5分钟)

最后总评由教师 和学生一起进行, 分析他们的成功 的地方和不足之 处。也可由学生 进行总结。

实践 结果

这次实践教学可以说收获很大,主要可以从以下几个方面来分析。首先,从课堂气氛来看,提高了学生的学习热情,课堂气氛活跃,讨论热烈。其次,就学习日语来看,在学生讨论完成课题的过程中,可以纠正错误的发音,锻炼听力,提高了会话能力。最后,通过小组合作,他们培养了自身的团队合作精神,懂得了互相帮助和体谅,对学生的人格的形成也起到了很大的作用。

(学生への指示)

◎要求

- 1、うれしいこと
- 2、辛いこと
- 3、終わりかたがいい
- 4、動詞: 10 個以上 15 分間 (中) 形容詞: 5 個以上 発表: 15 分間 形容動詞: 5 個以上 評価: 5 分間
- │◎手順
- 課題説明:5分間 1、課題の紹介 グループ相談: (中国語と日本語両方)

~我们快乐的一天~

- 5 分間 (中国語不可) 2、ロール・プレイ
- 15 分間(中国語可) 3、残りの二人はまとめる(日本語に 裱表:15 分間 ついてのまとめと中国語のまとめ)
 - 4、一番言いたい言葉を一つ言う。
- 5、15 句ぐらい(要求した内容を全部書くこと)
- 6、喧嘩は禁止(これからずっと一緒やらなければならないことを考えよう)

◎時間割

学情分析及对策 价值观 · 尊重学生人权,价值观, · 努力做到公平,平等。 动手 能力强 · 走出教室, 超越课本 思维 · 授课方式多样化, 不能拘 泥于一种方式, 经常变化。

◎今后的课题

这次课题的练习也反映出了几个问题。比如:如何促使学生多说日语?在小组发表的时候,其他的同学应该做什么,不是只看着。如何保证会话的质量等,为了拓宽学生的知识面,教师应该做什么?等等。

【聴解ストラテジーを意識した「ニュースタスク」の授業実践】

聴解ストラテジーを意識した授業の実践報告。ニュースのウェブサイトを利用して、「ニュースタスク」を行った。学習者へのアンケート調査の結果、学習意欲の向上が観察されたほか、語彙が増える、運用力につながるなどの効果を学習者が実感できることがわかった。

初中级日语听力课中导入"新闻视听"任务模块的实践尝试

一以听解方略的指导为中心

于亮 大连理工大学软件学院

背 黒

在人际交往时,"听解"要占50%以上的时间,同时,听解能力的提高又会大大促进外语学习。但是,跟"词汇"、"文字"、"语法"、"读解"的成绩相比,中国日语学习者的"听解"成绩却很低。分析其原因主要有:听解方略的欠缺、听力课授课方式欠佳等。为了解决以上问题并提高学习者的听解技能,本人尝试了在听力课堂中贯穿听解方略的指导,导入"新闻视听"任务模块的授课实践。

课程介绍

课程名称 · · · 日语听说 (三) 日语强化班的必修科目。64 课时。

主要的内容:新标日初级下37-48

学年 · · · · · 大学二年级 (平均日语水平为日语能力考试 N3-N2 之间)

人数 …… 39 人

使用教材 · · · NHK NEWS WEB EASY (http://www3.nhk.or.jp/news/easy/index.html) 为日本的中小学生以及在日居住的外国人提供的新闻放送。

时事新闻用简单的词语进行了再加工,语速缓慢。 日语汉字全部标注假名,难的词汇还标注字典的说明

NHK NEWS WEB (http://www3.nhk.or.jp/news/index.html)

需要的时间·课程时间为90分钟,其中"新闻视听"任务模块的

实践时间为15-20分钟。

实践 概要

本次实践是在既定课程日语听说(三)的基础上,利用日语新闻网站,加入"新闻视听"的任务模块来进行的。 每周一次,每次 15-20 分钟。主要利用的新闻网站是"NEWS WEB EASY"从中选取了 9 个新闻。

◎实施方法

在此以其中1个新闻(「今年の冬 暖かい炭酸の飲み物が新しく出る(2013年10月24日)」) 为例说明。

1 前作业

- (1) 提出本次实践的关键词
- (2) 就关键词提问,其中包括预测 新闻内容的问题,请学生们互 相商量后回答.
 - 例: ・中国でよく飲まれる炭酸 飲料は何ですか。それぞ れどんな味ですか。
 - 炭酸飲料はどの季節に一番多く飲まれますか。
 - ・寒い冬にどんな飲み物を多く飲みますか。どうして冬に 炭酸飲料を飲みませんか。
 - もし暖かい炭酸飲料が あったら飲みたいですか。
 - もし暖かい炭酸飲料があるとしたら、どんな味なのか予測してください。

2 本作业

(1) 提出问题后播放一遍录音。第一遍播放主要让学生集中掌握文章的大意或梗概。

例:このニュースは何の話ですか。

- (2)提出问题后播放第二次录音。第二遍播放让学生集中听主要的内容以及具体的事件。
- 例:・この商品を開発した理由は何ですか。
 - ・どんな炭酸飲料ですか。味とか炭酸の量から言って みてください。
- (3)提出问题后播放第三次录音。第三遍播放让学生对文章细节以及新单词讲行推测
 - 例:・試飲した男性はこの商品についてどう思っていますか。 ・コカコーラのほかにまたどの会社がホット炭酸を作る 予定ですか。
- (4) 确认新单词的意思。 新単词:ジンジャー、生姜、キリンビバレッジ
- (5) 让学生自己确认听懂了什么,没听懂什么。

3 后作业

- (1) 展示关联新闻视频。在 "NEWS WEB EASY" 的网页中,还有是一个"简"的,还有话,就能试听到与。 通新闻"的试识,到与话,就能试听到与话,就能试听到与他时间,是是一种一个。 是是以正常的大人。 还带有视频的新闻。
- (2) 让学生自己确认与"简单新闻"相比,"普通新闻"大概能听懂多少。
- (3) 简单讲解关联视频的内 容或者词汇。
- (4) 请学生谈谈对这则新闻的感想。

实践 结果

实践后对学生进行了问卷调查, 分析调查结果发现

- (1) "新闻视听"能够提高学生的学习兴趣。
- (2) "NEWS WEB EASY" 上的新闻作为听解资料是符合 学生现有水平的。
- (3)通过"新闻视听"的实践,学生学会有意识的运用"听解方略"进行听解练习。

今后的 课题

- (1) "新闻视听"与既定课程内容的时间 比例安排还需要再思考。
- (2) 新闻的选择角度和依据还需要斟酌。

実践紹介 ⑥

【教室内外学習活動の連携手段実践―ネット YY を例として】

インターネットを活用した授業の効果を客観的に測るために、実験群と統制群に分けて実践を行った。教師はまず学生と目標及 び評価基準を共有し、自己内省・ピア評価シートを設計した。実践中、学生はネット授業を録画するとともに、振り返りシート(自 己内省・ピア評価)を記述した。それらの記録及び学生へのインタビューをもとに授業の効果を検証した。

"秀精彩"沟通课堂内外的综合性学习实践

——以 YY 网日语协作授课为例 吴鑑萍 浙江越秀外国语学院东方语言学院

背 景

外语是一门实践性和综合性很强的学科。 但长期以来,由于种种原因,我们的外 语教学处于一种相对封闭的状态。课本 是学生主要的信息源, 教师是学生主要 的信息发布者, 教室是学生主要的信息 交流场所。在全球信息化的背景下,一 种沟通课堂内外, 在新媒体环境中活用 网络平台与资源的综合性学习活动日益 受到学生的欢迎。综合性学习意在加强 外语学习的应用实践,并促进学生外语 素养的整体推进和协调发展。

课程介绍

课程名称···日语听说

学年 · · · · · · 2013—2014 学年第一学期 (日语专业大二上学期)

人数 36 人

使用教材··· YY 教育 URL: http://edu.yy.com

《新大学日语听力与会话①(修订版)》高等教育出版社

需要的时间

前半: 2013 年 09 月 16 日~ 2013 年 11 月 15 日 (开始实践·初期成果·发现问题) 后半: 2013 年 11 月 15 日~ 2014 年 01 月 10 日 (推讲实践·解决问题·提出结论)

频度: 1-2 周-次 YY 网授课

事前准备···有 YY 网日语频道授课经验的学长用 PPT 讲解如何在 YY 网

上开设自己的教室。

实践 概要 YY 网是专业的互动网络教学平台,基于全球最大的免费语音工具 YY 研发,实现了网络线上即时互动课堂,提供清晰流畅的高音质语 音视频服务。任何人经申请都可以拥有 YY 网日语教育频道的个人或团队日语教室,通过网络授课可以向全世界"秀"出日语学习的精彩。 在课堂内有限的时间里,口语交际和表达展示的机会并不多,作为综合性学习的延伸,运用学生喜闻乐见的网络平台,从课本或课堂 中发现主题,从身边的热点问题中提炼主题;从日本社会文化资源中挖掘主题,由兴趣爱好相投的四人成组各自申请设立 YY 网日语 教室,分工进行资料收集、PPT 制作、网上日语授课、课堂内总结发表等工作,有效沟通课堂内外,实现学以致用的目的。

◎实施方法

(1) 实践前测试

了解实践前的日 语水平, 以便对 比分析

(2) 课堂内日语采访活动

通过询问回答兴趣爱好及大学阶段 的学习计划和梦想(结合教材第一 课内容) 等来寻找志同道合的伙伴 结成一组(每四人一组):

(3) 课堂内小组讨论

结合教材内容及各 自兴趣爱好, 通过 日语交流确定授课 主题

グループの名前

ネットYYでの名前

授業の内容

座右

付箋紙の図形

(4) 课堂外开设 YY网教室

确定各组名称和 主题后在 YY 网 申请开设自己组 的日语教室:

天天向上

我和小伙伴们

一起说

日本料理

すべての終わり

は新たなる

始まりである

重

(5) 课堂外综合性学习

小组成员合理分工、各司其 职, 收集资料撰写教案, 制 作 PPT 网上实时日语授课。 授课过程中录像并截图,分 析总结并撰写发表报告。

夜明け

日本文化介绍

日本の衣食住と交通

全力を尽くせば、

不可能も可能となる

(6) 课堂内小组间发表

每次实践后的下一周的 课堂内每小组5分钟使用 PPT 用日语发表,展示成 果, 汇报交流

内日语讨论如何更好地在 YY 网上 授课, 总结反思, 形成经验, 为下

(8) 课堂外反思

各自撰写反思表 (含组员评价), 形成文件夹,记 录成长的过程

(9) 实践后 测试

对比分析日 语能力水平 的变迁;

(10) 实践记录

的记录、访谈录音文字化整 理、反思表反思内容及组员 评价内容的收集分析等。

(7) 课堂内小组讨论

从其他小组的发表中得到启发,组 一轮实践做准备;

成绩分数的统计、网上痕迹

(上图为部分小组信息, 学生们认真对待, 不仅开设了 YY 网教室, 还确定 了各组的座右铭,而且在教室墙上贴了展示自己组员感想的背景图形)

教师的参与:1、和学生统一目标并确定评价基准(作为自主学习内容,占课 程总评分 15%, 由教师访谈打分 5%、总结发表互评 5%、反思表 3%、测试 2%构成); 2、设计油印反思表(含组员评价),采购发放文件夹,说明用途; 3、课堂内讨论及发表的录音采集:4、课堂外网络授课录像截图的收集

拱

在不安的世界里

寻找安稳

アニメ

人生に夢があうの

ではなく、夢が

人生を作るのです

猫

5、访谈安排和录音整理;6、测试安排和批阅分析。

实践 结果

值得提倡。利用网络平台资源开展综合性学习是小组合作形式下沟通课堂内外颇受学生欢迎的一个实践,采取自评,互评,小组评, 师评等各种评价方式,一起总结、交流、分享、反思,从而使学生获得基本的综合性学习方法,更激励了学生学习研究的主动性 和积极性。在新媒体环境中引领学生开展系统有趣的综合性学习活动,不但培养学生"自主、合作、探究"的能力,并且使学生 的外语素养有一定提高,值得作为研究课题,去寻找并发现身边贴近学生生活的、学生感兴趣的素材或载体来深化推进此项实践。

【共同学習における成績評価シートの試み】

日本文学の授業にて積極性の向上を目指すとともに、「ただの楽しい授業」に終わらせないための工夫として成績評価基準を導入、 その効果を追跡した。結果として、学生の行動記述や感想の分析から、評価基準の導入と意欲向上との関連性が指摘されるとと もに、発話の増加や正確さのためには更なる改善の必要性が課題として挙げられた。

协同式教学模式中考核方式的作用

徐迎春 上海海洋大学

谐 몸

本校"日本文学作品选读课"是四年级上半学期的课程。一周上一次课。因此 学生缺席现象很普遍。在这种情况下,本课程采用了协同式教学模式,学生 的评价也非常高。但是, 学生是如何参加协同式小组讨论, 通过讨论在知识 结构上有了如何的提高等等,仅凭一次的课堂 ppt 发表和小论文是无法给予 公平的评价。

因此,为了不仅是对课堂内的表现,而且对课堂外的学习给予公平的评价。 在本学期的开学初制定了详细的成绩考核标准。

课程介绍

课程名称···日本文学作品选读课

学年……四年级

人数 · · · · · · 120 人 左 右 (4 个 班 级) 使用教材……没有指定的教材,指定作

品。作品以近现代著名作

家的作品为主。

需要的时间 · 1 次的实践需要 90 分钟。

实践 概要

本课程采用协同式教学模式。学生是课堂的主体,教师是参与者。开课之前教师制定具体的成绩考核细则,发到 教学网络平台上。学生根据这个细则进行课前准备。课前准备包括选题目、查阅资料、小组讨论、撰写 PPT 以及 把 PPT 数据发给教师等一系列过程。上课主要分为,朗读作品、PPT 发表和小组讨论以及教师的点评等。通过此种 考核方式刺激学生学习积极性,最后达到听说读写等日语综合能力的提高。

◎实施方法

1 课前准备 (教师的课前准备)

核标准以及上课流程

制定详细的成绩考 核标准, 之后将其发 到教学网络平台上。 让所有的学生知晓 成绩考核标准以及 上课流程。

2. 课堂发表

分。

【考核标准】

(1)朗读作品

发表组和配合组的

每个成员朗读与

PPT 发表内容有关

的作品的相应的部

(2)作品的选定

教师在开课之前选择 本学期要赏析的作品。 并且提供给学生查询 论文的中文以及日文 网站。这些信息也要 发到教学网络平台上, 让所有的学生在进行 协同学习时有个参考。

(2)PPT发表

发表组发表 PPT。

小组的每个成员

PPT 发表。

◎朗读文学作品(检查单词的读法以及流畅程度等等)[5分]

◎配合组的提问是否与作品有关(必须是与作品有关的提问)[10分]

◎读后感(与作品有关的,或者是对这门课程的评价等等。字数为500字左右。

◎发表组对配合组的提问是否给予了合理的回答 [10 分]

(每个学生要上两次课,因此读后感的总分数为 20 分。)

◎发表题目以及内容必须围绕所选的作品 [10 分]

上课之前打印,上课时朗读。)[10分]

都要承担一部分的

◎发表组在发表一周之前把完整的 PPT 以邮件的方式传给老师和配合组的成员 [40 分]

(每个学生作为发表组和配合组的成员参加两次课堂讨论,因此朗读作品合计分数为10分)

(学生的课前准备) (1)学生的分组

发表组发表结束之后,配合组和

发表组围绕PPT的内容进行讨论。

教师对学生的提问以及回答要适

当地给予点评与指导。让学生们

不仅畅所欲言, 并且通过讨论在

知识结构构建上也有个提高。

因为是四年级的学生, 因此要根 据本身的实习以及面试等等日程 自主分成若干个小组。每个小组 一般由4至5个人组成。小组分 为发表组和配合组。发表组主要 负责 PPT 发表。配合组主要负责 课堂提问。因此, 在本课程学生 必须至少要参加两次课, 才能有 资格参加成绩考核。

(2)选定发表的作品

每个学生一次是 以发表组的成员, 另外一次是以配 合组的成员上课. 因此,每个学生 至少要读两部作 品。

(3)PPT的完成

发表组通过小组讨 论之后, 必须将完 整的 PPT 在上课一 周前通过邮件的形 式发给教师和配合 组的成员。 另外, 还有每个小组成员 的读后感。包括配

合组的读后感。

首先, 教师对发表组的 PPT 内容进行整体上的点 评。发表好的部分和需 要加强的部分。这会给 下一组发表的学生一个 很好的提示。

(4) 教师点评

(5)读后感

不限制读后感的内 容。与发表作品有 关的,或者是对课 堂的评价等等。

实践结果

协同式教学模式中的评分标准,培养了学生查阅资 料、知识梳理、语言表达等能力、最终达到了提高 学生听说读写等日语综合能力的目标。不足的一点 就是, 好多学生把答案和提问事先写好, 这使课堂 讨论过于形式化。这主要源于学生的日语水平还没 有达到所要求的水平, 因此站在讲台说日语觉得不 好意思,或者是畏惧自己会说错日语。今后,第一、 继续提高学生的专业知识水平。第二、营造一个使 学生能够更加活跃地参加课堂讨论的课堂氛围。

外语综合性学习有利于学生在感兴趣的自主活动中全面提高外语素养;是培养学生主动探究、团结合作、勇于创新精神的重要途径

【課外協同学習におけるポートフォリオの試み】

学生の主体性を生かし、学習過程を全体的に測るポートフォリオ評価法を生かし、課外協同学習を支援して、学習者の学習意欲を高めることを目的とした。1週間に1回の課外学習を利用し、授業の担当教師と連携をとりながら実践を進めた。協働学習形式とポートフォリオを、教育サイクルにおいての緊密した二環として捉え、「課外学習ポートフォリオ」を開発し、その効果を検証した。事前アンケート、中間アンケート、そして、平時電話インタビューと中間グループ長雑談会のデータ及びポートフォリオの記述をもとに学習意識の変化などを分析した。

如何实现课内与课外、教与学的衔接?

张丽梅 上海海洋大学

背 黒

在日语学习者人数不断膨胀的今天,"现在的学生学习动机不足,缺乏学习积极性"等,来自日语教学第一线的叹息声不绝于耳。于是,日语教学研究焦点从"如何教"转向"如何学"也就成为必然趋势。本实践着眼于激发学生学习主体性和积极性,通过预习、复习和过程评价等环节,实现教与学的有效衔接。实践主要包括课外协同学习和针对协同学习的过程评价两部分内容。限于篇幅,本文以如何组织学生开展课外协同学习为主线,对本次教学实践进行简单阐述。

课程介绍

课程名称··· 高级日本语(1)(依托) 学年···· 日语专业3年级第一学期

人数……27人

使用教材···《高级日本语(1)》,上海外语教育出版社需要的时间·作为课堂教学的一个必要环节,每篇

课文一次活动的"课外协同学习"实践贯穿一个学期,活动所需时间不限。

实践 概要 首先为保证实践活动的高效开展,在实践动员大会上就"实践目标"和"实践方法"向全体同学做全面细致说明。并将全体学生根据日语水平,结合学生的个性、人际关系等因素,分成5个小组。确定小组长及其责任。为了有效实现教与学的有效衔接,本活动内容就围绕课前预习和课后复习展开。同时为鼓励学有余力的同学进行探索性学习,在活动中加入了"兴趣课题研究"主题。每次课外协同学习活动时间和地点由小组成员商定。

◎实施方法

事前个人准备

根据事前分工安排, 每位小组成员对自己 所承担的课文部分进 行深入学习理解,同 时围绕课文内容有针 对性地提出(何、な ぜ、どのように)问题, 供活动时大家讨论。 协同学习活动

2位小组成

各位小组成员对结果, 对有疑问的对称 那种说话,对有疑问的对话,对有是一个时间的对话,我们可以最后得

出结论。

针对兴趣课 题部分进行口头汇报,并回答小组 其他成员提

活动后,依据提前做好的自我评价表和相互评价表,每位同学从学习态度,发言情况,理解能力表达能力和活动感受等方面进行自我评价、成员之间相互评价。活动后,在课堂上再和教师就课文内容以及课文相关内容、主旨等问题展开师生、组组对话生生对话,加深内容理解,形成相互探讨教学相长的课堂氛围。课后每位学生再对本课学习感受等进行文字性总结(内容,长短,不限)。

◎实践结果与今后的课题

实践结果发现:通过开展这种围绕"预习"和"复习"展开的课外协同学习,自然形成一种相互监督和相关学习的氛围。同时,通过自我评价和相互评价环节,促使学生及时反思自己的学习过程,有利于学生自主监督管理学习。特别是通过在活动中导入"档案袋评价"

方法,帮助学生意识到学习过程的重要性,对日常学习有了全新的认识,在帮助他们改变"应试学习"模式上发挥一定的作用。但是,与此同时这种活动的开展,也对任课教师提出了更高的要求。面对这些对授课内容有了较为深入的理解、准备较为充分的学生,任课教师需要对授课内容有更为深入的思考和设计,对教授方法以及理念进行及时更新。比如:变"灌输式"教学为"对话式"教学,努力营造一种积极讨论的学习氛围,实现教师与学生之间,各小组间对未尽事宜进行意见交换。变"语言知识"中心为"话题中心"式教学,同时需要根据课文大量采用或然性命题,引发学生发散性思维,或者就课文相关内容进行进一步拓展等。

実践研修に寄せて

12月の発表では、北京師範大学の林洪先生と同大学の冷麗敏先生をお招きし、参加者の発表に対してコメントをいただきました。また、先生方ご自身が取り組まれた実践研究の講義もありました。中国の日本語教育研究の最先端をいくお二人との交流は、どの参加者にとっても貴重な経験になったことと思います。以下、お二人の先生からのメッセージをご紹介します。

在 12 月的发表中,我们邀请了北京师范大学的林洪老师和同校的冷丽敏老师,对参加者的表现进行点评。此外,两位老师也通过演讲展示了自己进行的实践研究。和这两位引领中国日语教育研究先行者的交流,对参加者而言也是非常珍贵的经验。下面将介绍两位老师的感想。

林洪 北京师范大学

2013年12月7日-8日,有幸应邀参加了由日本国际交流基金会北京日本文化中心与北京外国语大学日本学研究中心共同举办的"日本語教育学実践研修2013発表会"。听了老师们历经4个月的研修及实践成果汇报,能够深切地感受到大家在努力改变以教师为中心、教材为中心的教学理念和模式,在努力发挥学生的主观能动性、努力把语言知识的教与学融入学生的思维过程、交流过程。这些努力十分难能可贵,值得进一步发扬光大。听过几位老师的成果汇报之后,有如下三点建议,供日后组织合作学习、协作学习时参考。

- 1. 在设计合作学习、协作学习时(其实,课堂教学设计均如此),首先要判断清楚学生的哪些需求是需要满足的,哪些需求是需要帮助他们加以调整的。因为学生已有的学习习惯或是学习策略、方法不一定都是合适的。
- 2. 输入环节的设计,目标要相对集中,不要贪多。不论是 "读"还是"听",都需要有利于学生基于已有的日语 基础和相关知识储备加以推测、判断。而每个小组、每 个人的工作的异同,要根据实际情况加以考虑和设计。 重要的前提是,是否有利于相互交流、形成共识,并成 为下一个环节的基础。
- 3. 要基于输出的可能性和可行性做好输出的预设,即在输入环节中获取信息的基础上,充分考虑如何引导学生用难度低于输入难度的日语来表达内容相对复杂的信息。只有做到这一点,才能更好地让学生建立信心、形成兴趣、养成良好的表达习惯。而良好的表达习惯,又与良好的信息摄取、分析、交换的习惯密切相关。

冷丽敏 北京师范大学

首先, 谈谈参加本次"实践研修报告会"的感想。第 一,这种连续性的、并与教师自身教学实践研究相关联的 "实践研修"非常有意义。这样的研修不仅有助于提高教 师的教育实践能力,提高基于教育实践的研究能力,而且, 对于提高教师今后的自我反思性研修意识都将产生积极的 影响。第二,研修成果报告会开得好。报告会充满了浓厚 的学术氛围气,与会教师的发言充分展示出她(他)们对 教学实践研究的潜力已被很好地调动起来。第三,本次研 修是有成效的, 研修的"实践研究报告会"便是最好的研 修成果展示。其次,写给参加实践研究报告的老师们:教 学实践研究是提高教学质量, 改善课堂的有效途径。希望 老师们在今后的教学实践中能够善于发现其中的问题,增 强教育实践研究的问题意识,并追求不断的自我反思,改 善教学, 使教学实践——开展实践研究——反思教学—— 改善教学——再实践与再探究,形成一个长期、有效的良 性循环, 在此过程中, 不断提升自身作为一名高校日语教 师的专业能力。相信老师们会在今后的日语教学实践与研 究中不断成长,取得更大的进步!



レポート概要紹介

12月に提出されたレポートは、いずれも参加者が日々の実践の中で抱えていた課題から生まれたものです。「聴解」「語彙」「発話力」「評価」「コースデザイン」など、教師の課題に合わせて多様な内容のレポートが集まりました。それらのレポートの内容をご紹介します。日本語教育の実践研究に関心を持っている先生方の参考にしていただければと思います。

12 月提交的报告,全部都是参加者在平日实践中所思考课题展开得到的。"听解""词汇""口语能力""评价""活动设计"等等,与教师的课题一同,我们收集整理出内容多样的报告。下面将介绍这些报告的内容。对日语教育的实践研修感兴趣的老师们敬请参考。



文章の読み方を育てる試み 巴德玛 (内蒙古大学)

日本語双学位の二年生の学生を対象に多読の 授業を実践した。テキスト以外に日本語の文章 を読んだことがなかった学生が、最後のアンケー トでは、「日本語の文章が読める自信を持った」 と述べるようになった。文章の内容に関する理 解問題をどのぐらいできているかを毎回調べ、 学生のテキストへのメモなどもデータとして考 察を行った。

連語インプット重視の 教授法を作文授業に導入する試み 李国磊(徳州学院)

連語インプット重視の教授法を作文授業に導入 した実験クラスと、通常の方法の統制クラスを設 け、実践前後に作文を書かせ3名の教員で分析 的評価を行った。その結果、評価項目「正確さ、 適切さ」では、実験クラスに効果が見られた。

指示詞「その」の習得研究 - 聞き手の身に付着した場合 — 邹善军(大连理工大学软件学院)

母語干渉が起きやすい指示詞「その」(その人の身に着けているものやその人の身体部分など)の使い方を対象に、1年生のクラスで「インプットの量を増やす」、「繰り返す」、「使わせる」、「誤用訂正をする」、「整理させる」などの強化方法を利用し、学習効果を調べた。テストで実験群と統制群を比較した結果、実験群の正答率が高いという結果を得た。

文法運用力を改善する 教育実践期中報告 张果(湖北文理学院)

発表や討論などの場を作ったり、類似表現を学習者自身が調べてまとめる宿題を課したり、相互評価を取り入れたりするなど、学習者の学習意欲を高め、教室活動を活発化させる実践授業を報告。結果的に学習者の文法運用能力も高まった。

聴解の授業における ストラテジー訓練の実践報告 郑颖(大连科技学院)

予測や推測などの聴解ストラテジーを意識的に 使用したクラスと、ボトムアップ式の授業を行っ たクラスの成績を比較した結果、成績に大きな差 は見られなかったが、アンケートの結果から聴解 ストラテジーを意識的に使用したクラスの学生の ほうが、学習者自ら積極的に聞こうという態度で 聞いていることがわかった。

『聞く』力をアップするための 学習初期の聞く訓練 対愛丽(大连职业技术学院)

五十音導入時期は、単音や単語を聞いて仮名 カードを拾う活動を導入し、その後1か月は、単 語の書き取りのほか、文をまずリピートしてから 翻訳したり、シャドーイングをしたりするなどし た。その結果、学習者の発音が良くなったり、単 語を正確に書き取ったり、速く読めるようになっ たりするなどの効果が見られた。

聴解教材の精選を通した、日本語 授業の改善に役立つ実証的研究 罗勇(大连理工大学城市学院)

大学で聴解教材を新しくした後、どのような効果が表れたかを学生と教師に対するアンケートとインタビューで説明した。新しい教材は学生には概ね歓迎され、また教師も新しい教科書の意義を感じていた。が、教師自身の教科書分析や授業に対する取り組み方には、まだ工夫の余地があることがあり、教師の成長の必要性が課題として指摘された。

五十音図を楽しく、効果的に 勉強させる授業法の探索 马可英(湖州师范学院)

日本語の歌を使用した五十音の文字と発音の指導法の実践。まず、歌(音)を聞かせ、それから歌詞を見て文字を拾いながら文字と発音を教える。学習者は興味を持ち、楽しく、且つ速く発音と文字を習得することができた。

実験報告 王鹏(北京第二外国语学院)

学習初期のシャドーイング導入の効果について、学習開始2週間後から6週間後までを観察した。その結果、学習開始2週間程度では、初級学習者にはシャドーイングは困難であるが、その後、徐々に方法とリズムに慣れ、内容理解にも効果があることがわかった。

トップダウンモデルで 聴解授業にチャレンジしよう 彭艳丽(陕西理工学院)

トップダウン方式の聴解授業を入門レベル段階から取り入れる実践だった。事前にキーワードを導入したり絵を活用したりすることによって、学生は入門段階から聞く活動に意欲的に参加し、また成績にも効果が現れることがわかった。



実践研究レポートタイトル一覧

11月に提出された実践研究レポートのタイトル一覧をご紹介します。

タイトル		執筆者
課外協同学習におけるポートフォリオの試み	张丽梅	上海海洋大学
科学技術日本語読解授業におけるピア・リーディングの実践 一学習者のモチベーションアップを中心に一	李同艳	天津财经大学
聴解の授業におけるストラテジー訓練の実践報告	郑颖	大连科技学院
文法運用力を改善する教育実践期中報告	张果	湖北文理学院
聴解教材の精選を通した、日本語授業の改善に役立つ実証的研究	罗勇	大连理工大学城市学院
連語インプット重視の教授法を作文授業に導入する試み	李国磊	德州学院
指示詞「その」の習得研究―聞き手の身に付着した場合―	邹善军	大连理工大学软件学院
産出能力を催す日本語教育に対する実践研究――「基礎日本語」を例として	王月婷	大连理工大学城市学院
聴解ストラテジーを意識した「ニュースタスク」の授業実践	于亮	大连理工大学软件学院
精読授業における協働学習の実証的研究――専門学校の学生を対象にする	纪艳红	上海市民远职业技术学院
共同学習における成績評価シートの試み	徐迎春	上海海洋大学
「聞く」力をアップするための学習初期の聞く訓練	刘爱丽	大连职业技术学院
文章の読み方を育てる試み	巴德玛	内蒙古大学
五十音図を楽しく、効果的に勉強させる授業法の探索	马可英	湖州师范学院
自己評価による学生の意識変化に関する実践報告	陶乌云	沈阳师范大学
教室内外学習活動の連携手段実践――ネットYYを例として	吴鉴萍	浙江越秀外国语学院 东方语言学院
語彙教育において場面づくりに留意した教授法の導入探索	刘金凤	无锡职业技术学院
トップダウンモデルで聴解授業にチャレンジしよう	彭艳丽	陕西理工学院
実験報告	王鹏	北京第二外国语学院

講師からのメッセージ



本次教育实践研修与来自全国的日语教师交流互动,留下深刻的印象。暑假 5 天的集中授课与研讨, 天气炎热且时间较长,但大家的学习热情和课题意识超过了我的预料,最后发表的课题计划令人欣慰,更 让人期待。12 月的课题成果发表会,时间虽短但互动效果明显,展示了实践的成果,更明确了今后的目标。 记得在总结会上我曾说过:"此次研修给了大家一次思考、设计与实施课题的体验,更让我们通过预赛真 正站到了教育实践研究的起跑线上;希望大家以此为基础,向着各自的发展目标继续前行。我们永远都是 你们的后援。"在此,再送研修老师们一句话:加油!!!中国日语教育的明天期待着你们!

北京外国语大学北京日本学研究中心 教授 曹大峰



炎热的夏季,学员们带着各自的实践课题,从全国各地聚首北京,参加2013年度日语教育学实践研修。在研修期间,学员们聆听讲座,参与讨论,探讨的是各自的教学实践,是如何将新的理论观念运用到教学中。会场三面墙壁上贴了近十张五颜六色的海报纸,而海报纸上又贴满了记录学员学习心得的N次贴。大家对学习、对教学实践的热情投入,就像这盛夏一般。虽然研修期间根本没有时间去游览名胜古迹,但是大家却收获了智慧与力量。凉爽的秋季,学员们基于暑期研修的成果,返回各自的学校开展教学实践研究。通过电子邮件研讨实践课题是学员与讲师的约定。来自学员的邮件是那么令人感到亲切!在寒意料峭的冬季,部分学员带着他们的实践报告再次来到北京,此时夏装已变冬装。任凭季节变换,唯有学员的笑脸与对教学实践的研讨热情没有丝毫改变。与会的学员报告了他们的教学实践,真诚的交流是那么温暖人心,就像明媚的春天,阳光普照每个人的心头。教学实践是复杂的、是不确定的。重要的是,面对困难,教师要有迎上去的勇气和智慧。我们的研修以及通过研修搭建的交流平台,未来将是参加研修的日语教师获得勇气和力量的一个有效渠道。我们将为之不断探索!也希望广大教师积极参加日语教育学实践研修!

北京外国语大学北京日本学研究中心 副教授 朱桂荣



実践研究は、ただの授業実践ではありません。研究の視点がなければ、他者に伝えることは難しいのです。しかし、 実験群と統制群を用意して比べました、とデータを見せるだけのものでもありません。詳細な記述がなければ、やは り他者には伝わらないのです。実践研究に取り組んだ先生方のレポート、完成度という点では不足な点も多いのです が、学生にとっていい教師でありたいという情熱を胸にこの研修に集まってくれた先生方は実践研究を進めながら、 その意義を大いに感じたようです。成長し続ける教師であるために、毎日の実践を研究に結び付け、発信していく。 それは大事な仕事だと思います。熱い教師たちの活躍の場が更に広がるように、私たちも応援を続けていきます。

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育上級専門家 松浦とも子



研修が始まった時、参加者の皆さんは熱意にあふれていました。どうにか学生の意欲を引き出したい、もっといい 授業をしたい…。この研修は、まずそのあふれる思いを整理し、テーマを絞るところからスタートしました。そもそ も実践研究とは何なのか、戸惑いがあったと思います。目的 - 実践方法 - データの取り方 - 分析 - 結果、この 流れに一貫性を持たせることは容易ではありません。それでも、試行錯誤しながら実践授業を行い、レポートにまと め上げていく過程で、何度も自分と向きあい内省を深めることにより、今の自分、これからの自分が見えてきたので はないかと思います。これからも実践研究を続けて、教師として更なる成長を遂げてほしいと願っています。

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 鈴木今日子



「失敗にも意味がある」。それが、研修の中で何度もお伝えした言葉です。初めての教育実践の過程で、おそらく先生方は様々な問題に直面されたことと思います。そしてその中で、授業の流れ、学生の反応、教室の環境、教師の意識など、先生方は様々な記録をとり、「うまくいかなかった理由は何か」「ここを変えてみれば結果は変わるだろうか」「自分の新しい課題は何だろうか」と考えられたことと思います。そのように分析を進め、課題を見つける姿勢は、とても大切なことと言えるでしょう。今後もそれを続けていっていただくことを願うとともに、一人でも多くの方が、日本語教育の面白さ、実践研究の楽しさを感じてくださることを期待しています。

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育専門家 柳坪幸佳

2013年地域巡回日本語 教師研修会実施報告

中国の日本語教師は約16,000人います(2012年国際交流基金調査)。広大な国土で、この膨大な数の教師への研修をどのように行うかが中国の教師研修の大きな課題です。1人でも多くの教師に研修を行うために、2011年より北京日本文化センターの日本語専門家が各地域に出向いて研修を行う「地域巡回日本語教師研修会」を新たに始めました。

この研修は、研修する側が開催地を決めるのではなく、研修を行いたい地域が開催を申請します。研修の開催条件は、近隣の高等教育機関3校以上、30人以上の教師が参加すること。研修の内容も開催大学が選択して決めます。こうすることで、地域の日本語教育ネットワーク作りも推進しています。

2013年度は、合肥、上海、延吉、南昌、成都の5地域で実施、計66機関から228名の教師の参加がありました。3年目の今年、特徴的だった地域として、2011年に続き2回目の実施となった合肥が挙げられます。ここは2回目ということで「専科の日本語教育」という特徴を出しました。また、現地の先生たち自身が発表したり、ワークショップ形式で「抱えている問題」と「解決の方法」について話し合うという内容を組み入れました。その結果、自分たちの問題について自分たち自身が考えるという、より発展的な研修となりました。これらの内容は、全て合肥の専科の先生たちが自ら考え、設計したものです。

教師たちが毎日の実践を振り返り、教育について考える場が各地 に増えていくことを願いながら、今後も巡回研修を続けていきた いと思っています。

中国高等教育机构在职日语教师约有 16,000 人。(2012 年日本国际交流基金会调查数据)在中国这样一个国土辽阔的国家里如何组织如此人数众多的研修是中国教师研修所面临的巨大课题。为了能让每一名教师都有机会参加,从 2011 年开始北京日本文化中心的日语教育专家们奔赴全国各地开始了"地域巡回日语教师研修会"活动。

研修的地点并不是由北京日本文化中心决定,而是由想要举办研修的 各个地方进行申请。

申请举办的条件是参加校达到 3 所以上(含 3 所)且参加人数达到 30 人以上的高等教育机构。研修的具体内容也由大学方面选择决定。通过这样的方式来推动构筑地区间的日语教育网络组织。2013 年,共有合肥、上海、延吉、南昌、成都 5 所城市的 66 所学校的 228 名教师参加。今年是研修开展的第三年,有代表性的地区有继 2011 年第二次实施研修的合肥。因为是第二次开展研修,我们也要强调"专科日语教育"的特征。此外,我们也会加入教师自我发表及以"抱有的疑问"和"解决的方法"为题的集体讨论。由此,教师可以思考自身抱有的疑问,研修也变得更具发展性。这些内容也都是由合肥的专科老师们亲自思考设计。

我们希望在各地可以有更多场所让老师反思教育以及每日教学实践,今后也将继续开展巡回的研修活动。



合肥

会場:安徽中澳科技职业学院

日程:2013年10月19日(十)

内容:講義「初級の教え方を考える」「教え方を改善する」

◎教学実践レポート

「教師の恊働を考える―短期大学での恊働実践を例に―」

安徽中澳科技职业学院 刘暁春

同学院 杉島夏子(JICA 青年海外協力隊)

「『日本語会話・初級』の教え方について一成功と失敗の模索一」 安徽城市管理职业学院 田甜

◎グループディスカッション

参加校:安徽中澳科技职业学院、安徽国际商务职业学院、安徽 城市管理职业学院、安徽工商职业学院、安徽外国语学院、安徽 三联学院、合肥世界外国语学校、合肥学院、安徽新华学院、中 国科学技术大学(計 10 機関、37 名参加)

合肥地域巡回日本語教師研修会感想 安徽中澳科技职业学院 刘晓春

合肥地区高职院校日语教师教学研修会的召开,象征着高职院校日语教师终于有了属于自己的交流平台。高职院校无论是师资还是生源都有着与本科完全不同、个性鲜明的特点。高职院校日语教师大多数是本科毕业,教学经验不足,缺乏从事教学研究的意识,而且要面对 40 人以上的大班进行教学更是难上加难。大家的共同烦恼是:学生缺乏学习动力,没有良好的学习习惯,不能完成教师的要求,教学效果不理想。

本次日语教学研修会的第一个亮点是:针对性与可操作性强。 来自北京日本文化中心的两位资深日语教育专家铃木今日子和柳坪幸佳不光深入浅出地讲解了二语习得理论,还给出了教学实践中如何应用该理论的方法,解决了教师教学实践中不能有效应用理论的难题,非常实用。参会的很多教师都表示将在自己的课堂里实践这些方法。

这次研修会的第二个亮点是:分享教学实践案例,共商解决方案。两份来自教学一线教师的教学实践报告(即教授日语听力课程与会话课程的教师联合授课教学实践报告、日语会话课实践教学研究报告),给参会的教师们很大的启发。在大家的脑海里,以为只有成功的经验可以写出来和大家分享。其实失败的实践也是很好的案例,大家可以从中发现不足之处,思考如何改进。俗话说,失败是成功之母。从平日的点滴失败中吸取教训,才会进步得更快。这也是本次研修会传出的一个重要理念。分组讨论中,各校教师提出自己难以解决的问题,其他学校的教师帮忙出主意,提供解决方案。有教师说:"原来还可以这样做教学研究呀!我怎么没有想到呀!""我非常用心地教,可是教学效果不好,我已经对教学失去了信心。""我以前没有外出和其他学校的教师交流过,以为交流也没有用。这次研修会给我了很多启发,以后我要多参加这样的研修会。"我相信今后每一位参会的教师都会有积极改善自己教学实践活动的行动。

为了使本次研修会的针对性、实用性强,会前和北京日本文化中心的两位日语教育专家以及我校日籍教师进行了多轮商讨。在这个过程中,我学会了如何整理并分析平时收集来的数据,并完成实践研究报告,学会了如何与各校商讨并组织一场参与度较高、有意义的研修活动。本次研修会强化了我的教学研究能力,还磨练了组织、协调、沟通能力。

上海

会場:上海外国语大学

日程: 2013年10月26日(土)・27日(日)

内容:「日本語能力試験説明会」

「アニメ・マンガの日本語」(学生向け)

「初級の教え方を考える」「中・上級の教え方を考える」

参加校:上海外国语大学、复旦大学、上海对外经贸大学、同济大学、上海理工大学、华东师范大学、上海交通大学、上海师范大学、上海海洋大学、华东理工大学、上海海事大学、上海财经大学、东华大学、吉首大学、东华大学、华东政法大学、上海外国语大学贤达学院、上海师范大学天华学院、上海电力学院、上海新侨职业技术学院、上海商学院、上海建桥学院、上海商学院、上海工商外国语学院、杭州师范大学(計25機関、60名参加)

上海地域巡回日本語教師研修会感想 上海外国语大学 张建



10 月 26 日, 由我校日本文化经 济学院主办的域。 正语教师中校区基明 日语教师中校区本年 我校虹口日本京大 下召满基金北松庙 文化中心生

语教育专家应邀为来自我校及复旦大学、上海交通大学、同济大学、华东师范大学、上海财经大学、东华大学、华东理工大学、上海对外经贸大学等上海各大高校近60余名日语教师作了《中高级日语教学法》和《初级日语教学法》的精彩专题讲座。

本次讲座我认为主要有三个主要特点。第一是两位专家在讲 座之初强调对于"中高级日语"及"初级日语"的定位及把握十 分重要。在和松浦专家的互动中,许多日语教师感觉到自己在实 际教学中对于中高级日语教学应该把握的尺度把握不够准确。第 二是确认了对现场日语教学中课堂总体设计、规划以及目标管理 的重要性。专家指出应该是在合理的目标设定的基础上决定单词、 语法及内容理解等各个教学任务实施的先后顺序。我们都感觉到 如果没有设定给学生的课堂目标, 我们作为教师在课堂上同样会 因为漫无目的而进行无针对性的教学,而且众多教师认为课堂时 间不够, 完不成教学任务, 其实也是因为没有能够根据教学目标 而进行教学内容的适当增减。第三是专家主持的参加讲座的日语 教师之间的座谈会的形式带给我们很多启发。老师们从事日语教 学的教龄可能很长,感觉自己很有经验,但教学中存在的诸多问 题却鲜有和同行们的交流, 也难得有机会听到从事日语教学法研 究的专家们的意见。座谈会上教师们的交流与经验、教训的分享, 以及松浦专家的点评都给我们留下了深刻的印象。

本次日本国际交流基金会北京日本文化中心日语教师研修会 是首次在上海地区举办,也是该中心专家首次与上海地区各高校 一线日语教师进行深入交流。与会全体教师都对此次教学法讲座 与交流活动表示肯定,期待今后能够创造更多更广的机会与平台, 进一步促进上海地区乃至全国的日语教学水平的提升。

延吉

会場:延边大学

日程: 2013年11月8日(金)・9日(土)

内容:「アニメ・マンガの日本語」(学生向け) 「運用力を育てる」「聴解の教え方を考える」

参加校:延边大学、延吉市 13 中学校、延吉市第 5 中学、延吉市 职业高中、和龙高级中学校、延边圣恩外国语学院、日中交流中心 (計 7 機関、35 名参加)

日语教师地区巡回研修会在延边大学举行 延边中日交流之窗 延边大学日语专业 金秀东

2013年11月8日、9日,延边中日交流之窗和延边大学外国语学院日语专业共同举办了日语教师地区巡回研修会。此次研修会有幸邀请到了日本国际交流基金会北京日本文化中心的教育专家柳坪幸佳老师和铃木今日子老师。

2013 年 7 月,我校日语专业的 7 名年轻教师参加了在长春举办的全国大学日语教师研修会。以文章表现为主题的该研修会,让参加者获益匪浅。北京日本文化中心的教育专家们的讲义,从教学内容到教学方法都非常精彩非常值得我们学习。遗憾的是这么有意义的研修会只有少数人能参加。当时心想这样的日语教师研修会能够在我校举办该多好。就在那时得知日语教师地区巡回研修会将于 9 月至 11 月期间在全国范围内举办。

得知该消息,作为"延边中日交流之窗"的事务担当者,作为日语专业的教师,我欣喜若狂。"延边中日交流之窗"在日本国际交流基金会的支援下,举办各种活动,向延边地区的日语学习者以及对日本文化感兴趣的人们,介绍日本文化,进行交流。深信如果日语教师研修会在"延边中日交流之窗"和延边大学日语专业的共同努力下在延边大学举办,就能够为延边大学以及延边地区中学、专门学校的日语教学第一线的教师们提供交流的平台。

11月8日(星期五)下午,面向学生举办的"アニメ・マンガの日本語"讲座,有近80名学生和老师参加。讲座结束后参加者们异口同声地回答"讲座非常精彩!学到了很多!学到的知识能够有效得应用于日语学习!"

11月9日(星期六)上午和下午举行的教师研修会,由延边地区的大学、中学以及专门学校的35名日语教师参加。听完以"運用力を育てる""聞くことの教え方を考える"为主题的柳坪幸佳老师和铃木今日子老师的精彩讲义后,参加者们围绕日语教学进行了热烈的讨论,交流了宝贵的经验。研修会会场气氛非常活跃,成了真正意义上的"交流之窗"。在地方日语教育日渐淡化的情势下,此类研修会得以举办,中学日语教师们看到了希望,感到很欣慰。

为期一天半的研修会圆满结束。作为研修会的具体事务担当

者和参加者,我感到很欣慰同时也学到很多东西。



32

延边中日交流之窗

南昌

会場:江西师范大学

日程:2013年11月22日(金)・23日(土)

内容:「アニメ・マンガの日本語」(学生向け)

「中・上級の教え方を考える」「聴解の教え方を考える」

参加校:江西师范大学外国语学院、江西师范大学科学技术学院、 江西师范大学国际教育学院、江西农大商学院、赣南师范学院、 江西科技学院、江西理工大学、江西农业大学、景德镇陶瓷学院、 九江学院、萍乡学院、江西旅游商贸职业学院、江西外语外贸职 业学院、东华理工大学、江西财经大学、南昌航空大学科技学院、 新余学院、南昌大学、南昌教育学院(計19機関、43名参加)

"2013 年度江西省日语教师研修会"之感言 江西师范大学 黄虎清

2013年11月22日至23日由日本国际基金会北京日本文化中心主办,江西师范大学外国语学院日语系承办的"2013年度区域日语教师研修会"在我校白鹿会馆成功举办。11月22日下午,北京日本文化中心的日语教育高级专家松浦とも子老师和同中心的日语教育专家铃木今日子老师一来到我校就为我校日语专业的学生做了题为「アニメ・マンガの日本語」的讲座。讲座中老师饱满的热情、精彩的讲解与讲座中的师生互动给我们和同学们留下了深刻的印象。通过讲座学生们找到了学习日语的兴趣和动力,对学习日语有了更大的信心和干劲。

11月23日,来自我省15所高校的43名日语教师参加了研 修会。松浦とも子老师和同中心的日语教育专家铃木今日子老师 分別为我们做了题为「中・上級の教え方を考える」和「聴解の 教え方を考える」的讲座。松浦とも子的讲座通过「JF 日本語教 育スタンダード」的导人、深入地阐述了中、高级日语教学中的 教授内容、目标以及教学模式等。通过学习我们教师了解了中、 高级日语学习者应该达到的语言能力水平, 明确了中、高级日语 教学的目标和任务,不仅为中、高级日语教学的效果检验提供了 标准同时也为我们的中高级日语教学提供了理论依据。铃木今日 子老师的讲座「聴解の教え方を考える」 从二语习得的过程导入, 阐述了提高学生日语听力能力的技能,强调了听力能力养成过程 中的"预测"、"推断"以及"自我发现"等环节的重要性,为我 们日语听力教学提供了非常好的典范。讲座之后,专家与教师就 日语精读进行了一小时左右恳谈, 教师们交换了精读的经验, 提 出了精读教学中的烦恼和存在的问题,专家都给了很好的建议和 答复。

近10年来,我省有20多所高校相继开设了日语专业,可以说日语专业还是个新兴专业,师资主要是30岁左右的年轻人,在这支年轻的队伍中大部分教师没有系统地接受过日语教学法的学习。这次的讲座可以说是给我省的日语教学带来了及时雨。江西省虽然有这么多高校开设了日语专业,但像这样的集会从来没有过,也没有像日语教学研究协会等这样的组织,这次研修会可以说是我省日语教学的盛会。通过这次研修会我深深体会到我省日语教师需要交流、渴望交流更需要有个组织来领导我们定期地举办些活动,为教师们和学生提供交流平台。会后参会教师都说这次的研修会收获很大,希望日本国际基金会北京日本文化中心的专家学者常来江西。江西省欢迎您,也需要您的指导。谢谢了!松浦とも子老师和铃木今日子老师。

成都

会場:成都理工大学

日程:2013年12月20日(金)・21日(土)

内容:「アニメ・マンガの日本語」(学生向け)

「初級の教え方を考える」「中・上級の教え方を考える」

参加校:成都理工大学、成都中医药大学、四川旅游学院、电子科技大学、西南民族大学、四川理工学院、西南交通大学、西南科技大学、西华大学、四川师范大学、四川大学、四川外国语大学成都学院、乐山师范学院、宜宾学院(計 14 機関、51 名参加)

四川地域巡回研修会感想 成都理工大学外国语学院日语系 张利平

2013 年 12 月 21 日,由我校与日本国际交流基金会北京日本文化中心共同举办了 2013 年度第五届地方高校日语教师巡回研修会。此次研修会举办前,根据中心提供的授课内容,我们征求了参会高校老师们的意见。其结果是:大多数老师希望听到专家们讲授从初级到高级的教学方法。这大概是因为大家、尤其是年轻教师普遍感到一些困惑:面对学习目的、需求不断变化的学生群体,在基础阶段如何引导他们养成良好的学习习惯、在中高级阶段如何激发他们不断发现问题、深化学习的热情。

此次研修会分为专家授课和专家与参会者的座谈两个部分。 授课内容包括:「初級の教え方を考える」(柳坪幸佳)、「中・上 級の教え方を考える」(松浦友子)。

松浦友子和柳坪幸佳两位专家讲授的内容以语言习得理论为 依托,所提示的方法针对性强,切合实际。通过她们循序渐进、 深入浅出的讲解,参会教师普遍感到受益匪浅。在座谈会环节, 参会教师畅谈、分享了教学过程中的心得,并由松浦女士现场解 答了老师们在课堂教学中所遇到的疑惑。

综合参会教师和自己的感受,我认为此次讲座主要有以下几 个特点。

- 一、把握日语教学各阶段的特点非常重要。两位专家在讲授具体的教学法之前,都会以提问的方式引出各阶段教学的定位。因为"教什么"是"怎样教"的前提。通过专家的演示和提示,很多老师意识到自己以前对各阶段的教学内容把握得还不够准确。
- 二、合理的课堂设计非常必要。课堂设计在中高级日语课堂中显得尤为重要。大家在座谈会环节中普遍感到"如果在课堂中运用相关教学法去教学,一是没时间,二是学生人数太多不可能实现"。经过专家的现场演示和点拨,让大家明白了教学中的取舍关系:重要的是分清哪些是必须在教室里完成的、哪些是学生可以在课后通过自主学习来完成的。
- 三、"JF 日本語教育スタンダード"旨在培养日语语言实际应用能力和跨文化交际能力的理念(Can-do)将会更加深入到本地区日语教师群体中。而专家们带来的教学理念和方法必将成为推动本地区日语教育向高水平发展的契机。大家的共同心声是:希望专家们将来把更多的学习、探讨的机会带到四川地区,让更多的一线教师受益。

此次研修会还带来了几个"第一":北京日本文化中心第一次 在四川地区首次举办类似研修会;来自四川地区几乎所有开设日 语专业的高校日语教师第一次有机会聚集一堂,共同学习、研讨; 于我个人、于成都理工大学日语教学团队而言,第一次主办日语 教学相关的研修会,大家在协作中积累了很好的经验。



国際交流基金 北京日本文化センターの 大学日本語教師向け研修

全国大学日本語 教師研修会 **7月中**旬

【北京日本文化センター、高等教育出版社共催】 第9回目、2014年は7月18日—23日開催の予定です。 テーマは「シラバス・授業目標と評価」。 全国から150名以上が集まる大型研修会です。 詳細はHPで6月上旬発表します!

講座の案内は HP でお知らせします。

日本語教育学 実践研修会 **8月中**回

【北京日本文化センター、北京日本学研究センター共催】 日本語教育を実践と研究の両面から捉え、自らの問題意 識を確認します。実践研究に興味のある熱い教師が集ま ります。少人数クラス制研修。

詳細は HP で 6 月から参加者を募集します!

地域巡回日本語教師研修会 9~12月

高等教育機関3校以上、30人以上の日本語教師が 集まれば、当センター専門家が出張します! 地域ネットワーク重視の研修です。 主催希望校は当センターまでご連絡ください!

教師の専門性の発展を目指す 大学日本語中核的教師研修

日本の大学から著名な先生方をお招きしての講座です。

【中国日本語教学研究会主催】

日本語教育学

シリーズ講座

北京外国語大学北京日本学研究センター、北京師範大学 日本語教育研究所、華東師範大学日本語教育研究センター、 北京日本文化センターの共同プロジェクトです。 2014年は11月に華東師範大学での開催を予定しています。

全国大学教師 ネット研修

【全国高校教师网络培训中心主催】

オンライン研修です。高等教育出版社と共に、 日本語教師対象の研修を企画、協力しています。 詳細はこちらをご覧下さい。http://www.enetedu.com

★最新情報をホームページでご案内しています★



国際交流基金 北京日本文化センター ホームページ www.jpfbj.cn

教材紹介

エリンが挑戦!にほんごできます。艾琳学日语(含光盘)

编著:北京日本文化中心(日本国际交流基金会)

出版:人民教育出版社

日本国际交流基金会所编著的《DVD で学ぶ日本語 エリンが挑戦!にほんごできます。》在中国重新出版。不是一味承袭原著内容,而是增添了许多能够在中国课堂上使用的活动和练习等内容。另外,其特色是具有原著所没有的漫画插图。还有主人公艾琳来到中国的特别篇。不仅是语言的学习,还可以通过观看漫画及 DVD 了解日本的高中生生活和文化。让我们和艾琳一起去体验日本的学习生活吧

教材的特点:

- ·用日语可以做什么用 Can-do 表示。
- · 注重异文化理解、多文化理解。
- ·可以通过观看 DVD 了解日本高中生的日常生活。

初级日语课堂活动 精选 100 例(含光盘)

编著:北京日本文化中心(日本国际交流基金会)

出版:人民教育出版社

日本国际交流基金会结合人民教育出版社之前所编著的《教科書をつくろう》一书,制作了初级用的教室活动集一书。其中收录了"介绍别人的生活""公开调查结果"等100个活动,此外,还汇集了对话、听力、阅读等丰富内容。此书的编集还受到了中国初高中日语教师的参与及大力支持。





欲购此书者可以通过以下方式购买。

人民教育出版社 教材教辅图书门市电话 010-5875-9302

http://pepbook.dian.taobao.com/

※北京日本文化中心(日本国际交流基金会)不受理此项业务。

~編集後記~

- 「顔が見え、声が聞こえる」研修の成果を参加できなかった人たちにもお伝えしたく、この冊子をお届けします。北京日本文化センターは、テーマ探求型の大型研修、ネットワーク重視の地域巡回研修、中国全土を覆うネット研修、様々な主旨で違うタイプの研修を展開しています。日本語教育研究が中国に根づき、花を咲かせ、世界に発信できるように。(松浦)
- ・報告書をまとめることにより、この実践研修がどんな意味があったのか、あらためて振り返りました。私たちも 試行錯誤の連続でしたが、やる意味はあったと確信できました。私たちも、今また新たなスタートラインに立っ た思いです。これからも、中国の先生方と一緒に走り続けたいと思います。(鈴木)
- ・暑かった夏、秋から冬にかけてのメールでのやりとり、そして年末の発表会。先生方の熱意とパワーに圧倒される4か月間でした。今回、この報告書を編集する課程で、たくさんの素敵な時間を思い出しました。これからも中国各地で豊かな日本語教育実践が生まれることを祈っています。(柳坪)

『日本語教育基礎理論と実践』シリーズ叢書が発刊されます

《日语教育基础理论与实践》系列丛书 即将问世!!

本套丛书是国内首次策划出版,其特点为邀请中日两国专家合作编写,反映同领域学术前沿信息和最新研究成果,日汉双语撰写以充分表述观点,放眼全球,立足中国本土;丛书各册均从日语教育的角度来讨论相关话题,与以往的纯学术性的研究专著不同,更加重视理论研究与教学实践及科研能力的结合;提供一定数量的课例及教案分析,以帮助读者通过实例理解体会新的教育观和语言观,结合自己的教学实践加以对比和反思,从而更好地组织教学、展开研究。

(日语教育研究概论丛书总序)

企画:国際交流基金北京日本文化センター、高等教育出版社 総主編:曹大峰、林洪

予定
予定
子子子子

詳細は国際交流基金北京日本文化センターのホームページ上で後日ご案内致します。

www.jpfbj.cn

~215教师邮件服务~

215ML教师邮件服务是为在中国教授日语的教师们提供信息、相互交流的平台。 从这里可以获取到实用网站以及日本语能力测试的宝贵信息。 参加资格是在中国从事日语教育的相关人士。不收取任何费用。

《参加申请》

希望参加的人,请写姓名和学校名或机关名发邮件给ML管理人 nihongo@jpfbj.cn



地铁国贸站下 从D出口往西走3分钟



北京市朝阳区建国门外大街甲 6 号 SK 大厦 3 层 301 www.jpfbj.cn